

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 中部中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	主体的に学ぶ生徒 「自律」	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt;対話的な学びの確立と言語活動の充実、共に学ぶ集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員公開授業（問題解決能力の育成）・テーマスピーチの発表（根拠をもって述べる 言語能力）</li> <li>・読書活動の充実（読解力） ・タブレット端末の効果的な活用（情報活用能力）</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修テーマのもと、教員が工夫して多様な手法で授業を進めていることは学校アンケート結果にも表れた</li> <li>・電子図書を利用して生徒が自主的に読書に取り組む姿が見られた。</li> <li>・ICTがどの授業にも浸透し、生徒が選択して学ぶツールの一つになりつつある。</li> <li>・中部中の合言葉「ありありなんや！」を意識させ働きかけることができた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習を定着させることができない生徒に対しての手立て。 ・さらなる読書推進</li> <li>・「テーマスピーチ」（言語能力の育成）に向けた手立てと、つけられた力の検証。</li> <li>・中学校区の保幼小中による学びの一体化、連携をさらに推進させる。</li> <li>・家庭学習の定着。発達特性による低学力の生徒へのアプローチとフォローを丁寧に進めていく。</li> </ul>	
重点目標2	個性が輝く生徒 「多様性」	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt;価値観や文化の多様性を認め合う態度の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語習得に取り組む生徒や特別支援学級の生徒への個別支援と進路保障</li> <li>・認め合い、高めあう人権教育・道徳教育・国際理解教育の実践</li> <li>・キャリア教育（職業体験、キャリア講演会、パネルディスカッション等）</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールド教室で日本語を学ぶことで、通常クラスに参加できる基礎ができた。</li> <li>・ありのままがいいという意識は高く、互いの「らしさ」を尊重する雰囲気はある。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エンパシー」をキーワードに多様性や多様な価値観を学び、理解し、関係づくりを進めていく。（支援や配慮が必要な生徒を核に据える）</li> <li>・日本語を習得中の外国籍生徒が活躍できる場の設定と多様なコミュニケーション力をつける手立て。</li> <li>・個に応じたきめ細かな支援につながるよう支援ファイルを有効に活用していくこと。</li> <li>・「美しく生きる」「自律」「多様性」をキャリア教育の視点で追究し、日常に溶け込ませていく。</li> </ul>	
重点目標3	生徒と向き合う教職員	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt;家庭訪問、教育相談、個人ノート、対話を中心に据えた生徒理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談的要素の自主学習ノートの要素を加えたDaily studyの定着</li> <li>・教職員全員（教員、事務職員、用務員等）の協働</li> <li>・質の高い教育提供に向けた総勤務時間の縮減</li> </ul> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習の公開授業や人権教育の研究大会（四同研、三人教等）にテーマをもって参加できるようになった。また、登校サポート教員、適応指導員、SC、SSWが生徒の様子をいち早く話題にし、職員全体で支援・指導を進めることができた。</li> <li>・経営委員会に事務職員が参加し、学校運営に積極的に参画している。教育環境の整備と教育活動の推進のために俯瞰し、助言、提案をし、チームとして進めている。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総時間の縮減に向け、部活動休養日を合わせ、勤務時間内に会議開催できるようにしていく。</li> <li>・中堅教員が学校運営に積極的に参画し、学校づくりの機動力になっていく。</li> </ul>	

重点目標 4	チームCHUBU	3
主な方策 成果と課題	<p>           &lt;主な方策&gt;運営協議会、PTA、地域人材が教育に参画できる取り組み            ・運営協議会とのパネルディスカッション            ・地域の方によるスペシャリスト授業、地域を拠点にした職場体験学習            ・中学生の地域行事への参加（防災訓練、講習会、四日市祭り後の清掃など）         </p> <p>           &lt;成果&gt;            ・パネルディスカッション、体育祭、文化祭、公開授業等への積極的参観。            ・1年生が地域スペシャリスト授業を実施でき、自分たちの住んでいる地域にどんな伝統技能・文化があるかを改めて知るよい機会になった。            ・保護者が運営協議会の方とつながり、保護者の声を運営協議会委員の方から届けていただくことがあった。         </p> <p>           &lt;課題&gt;            ・職場体験の受け入れ先を、運営協議会の方を通じて紹介していただくなど、新しい取り組みのパイプ役をさらに願う。            ・今後、より多くの地域協力者が参画できるよう、内容を充実させていく。            ・地域の教職員経験者等による「中部中学校版 放課後学習会」をさらに浸透、活用していく。         </p>	

## 2 改善方針

- ・今年度の実践により明らかになった課題を検証し、解決していくため具体的に進めていく。
- ・教育目標「美しく生きる」めざす生徒の姿「自律」「協生」「創発」めざす教職員の姿「生涯学習の術となる学び方の習得を支援する」「自律を奨め、個性・強みを伸ばす機会を保障する」「時代の変化に対応し、自らも学び続ける」とし、学校づくり4つの決意を進めていく。
- ・「めざす教職員の姿」を自らの授業や分掌で責任をもって実践していく。PDCAサイクルでの検証を行う。そのための研修会（研修）を重ねる。
- ・勤務時間のさらなる縮減をめざし、便利なツールの共有、情報交換、補い合いや、生徒支援、指導に隙間が生まれないように連携して進める。その結果、職場内の真の「心理的安全性」を形成していく。
- ・コミュニティスクールの機能をさらに高め、地域の豊富な人材の積極的な教育活動への参画を進める。
- ・教員、PTA役員、運営協議会委員に過度の負担がかからないような運営の仕方。
- ・子どもの育ちにかかわる喜びを感じられる学校、地域にしていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 橋北中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな資質・能力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>①問題解決能力の向上をめざした主体的・対話的で深い学びによる授業づくり ②学びの個別最適化と協働的な学習 ③全ての教科による言語能力・情報活用能力の育成 ④ICTの効果的な活用方法の研究</p> <p>【成果】 ・全教員がICTの効果的活用を目指した実践を校内で公開するなど、すべての教科においてICTを活用した授業研究を行った。また、ICTの活用について、ICTに特化したCAN-DOリストを作成し、生徒にアンケートをとるなど、成果を検証しながら研修を進めた。 ・昨年度の研修の課題であった単元を意識した授業づくりに対して、各教科の見方・考え方を深める単元づくりを意識した授業を行うことで、生徒が主体的・対話的で深い学びに学びをする場面が増えた。</p> <p>【課題】 ・同じ講師の話を聴いたり、研修の方向性を示しても、各先生の認識のズレがあった。 ・生徒同士が授業中に課題に対して繋がっていく授業づくり、単元づくりを進めていく必要性を感じた。</p>	
重点目標2	キャリア教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>①社会的・職業的自立に必要な4つの力の獲得の支援 ②健康な体づくりの促進 ③非認知能力や自己肯定感を育む教育活動の工夫 ④特別支援教育の充実 ⑤持続可能な社会の実現をめざした教育の促進</p> <p>【成果】 ・4つの力を意識した毎日の活動や学校行事の振り返りを日常的に行ったことで、生徒に自律・協働・創生する場面が見られ、生徒会を中心とした生徒の自主的な活動が促進された。 ・個を大切にされた教育活動が実施され、きめ細かな支援の様子が保護者にも伝わり評価も得られた。</p> <p>【課題】 ・スコラ手帳を活用した自律を促す指導を行ったが、2年たっても定着していない生徒もいるため、別の方法を考える必要性がある。 ・健康面や体力面、規則正しい生活に関する数値が低いため、生活改善や体力向上につながる啓発の必要性がある。</p>	

重点目標3	地域とともにある学校づくりの推進	4
主な方策 成果と課題	<p>①小規模校の強みを生かした教育活動の取り組みと地域への発信          ②コミュニティスクールを活用した諸活動の推進          ③『学びの一体化』の取り組みの促進          ④地域と連携した防災教育の取り組み          ⑤働きやすい職場環境づくり</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校の強みを生かしたというより、小規模校だからこそできる教育活動を、地域と連携しながら進め、保護者や地域からも好評を得た。</li> <li>・ほぼ毎日のHP更新、学期に1回以上の学校公開やいつでも自由に参観できる「ふらっと参観」を行うことができた。その結果、様々な取り組みのねらいや効果を外部にアピールすることができた。</li> <li>・四日市市で初めての防災部を、防連や市民防と連携しながら、立ち上げた。月に一度、ミーティングをしながら行事のアイデアを出し、小学校の防災学習や橋北消防フェスタに参加し、地域ぐるみでの防災意識を高めることができた。また、コミュニティスクール、PTAなどが連携し、グラウンドの除草活動を行うことができ、快適な環境で体育祭を実施することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>学びの一体化において、園・小・中で同じ時期に同じ目的の取り組みをすすめることの必要性を感じた。また、子どもを通した学びの一体化をもっとすすめる必要がある。</p>	

## 2 改善方針

○コミュニティスクール委員からは、今年度の本校の地域に根差した取り組みについて、高評価をいただいているので、次年度も学校教育ビジョンの重点目標を柱に、地域・学校・保護者が1つのチームとして課題や成果を共有しながら、協働体制の構築を図る。

○各教科において生徒同士が繋がり合うことができるように、各教科の見方・考え方を働かせる課題の設定や、授業づくり単元づくりにおいても学びが深まり合う中で生徒同士がつながる実践の推進を図る。また、上記の実践ができるように、教師の授業力向上を推進し、さらには個別最適な学びと協働的な学びの実現に繋げていく。

○本校キャリア教育の柱である4つの力（つながる力・みつめる力・うごく、いかす力・めざす力）の向上のため、3学年で取り組んでいるキャリア学習の取り組みを再構築し、3年間を通した取り組みになるよう改善を図る。

○防災部の生徒を中心に、本校の防災学習を進めるとともに、地域の防災活動にお手伝いではなく、企画・運営に携わらせることができる生徒の育成をしつつ、地域で学び、地域を愛し、やがてその子どもたちが大人になって地域に戻ってくる、といった好循環を形成できるよう、コミュニティスクールや学びの一体化を中心とした取り組みのさらなる推進をしていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 港中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	知恵を育む（知）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着 2 思考力・判断力・表現力の育成 3 特別支援教育の推進</p> <p>【成果】 ○港タイムを有効に活用することで、基礎的基本的な知識・技能の定着につながっている。 ○特別支援教育では、丁寧に、それぞれの生徒に応じた指導や支援がなされている。 ○対話を通し、思考力や判断力を育む学習課題を設定したり、生徒が主体的に問題解決する授業展開やグループ学習を多くとり入れた授業を行ったりと、授業改善に取り組むことができた。</p> <p>【課題】 ●学力の二極化が改善されていない現状がある。 ●生徒の日常的かつ有効なタブレット使用や、授業内での効果的なICTの活用に課題がある。今後は、ICTを使った双方向でのやり取りのある学習につなげたい。</p>	
重点目標2	心を豊かにする（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 認め合い高め合う仲間づくり 2 健全な心の育成 3 読書活動の推進</p> <p>【成果】 ○体育祭や文化祭などの行事を通して、生徒が主体的に行動する姿勢を育成し、互いのちがいや良さを認め合う等、仲間づくりにつなげることができた。 ○みなトーク、グループワークトレーニングなどの取り組みを通じて、相互理解が進み、認め合おうとする意欲を育成することができた。 ○朝の読書、教師による読み聞かせ、オープンスペースでの書籍の紹介等、本に親しむ機会が確保され、読書活動の推進をさらに進めることができた。</p> <p>【課題】 ●一人ひとりが輝く場面づくりとリーダーの育成、相互に支えあう関係づくりが必要である。 ●様々な不安・問題を抱えている生徒がおり、教育相談の充実が必要である。</p>	
重点目標3	健やかな体をつくる（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 体験活動等を生かした安全教育の充実 2 健康管理を心がける生活習慣 3 健康でたくましく生きるための体力の向上</p> <p>【成果】 ○地域や警察、市行政機関等と連携し、防災教育や交通安全教育を行うことができた。自分の身を守る行動の大切さを伝えることができた。 ○栄養教諭やSCと協働し、食育や思春期の心についての講演会を行うことができた。 ○ICTを活用することで、長期休業中に、生徒の生活の様子をタブレットを通して確認することができた。</p> <p>【課題】 ●部活動が任意加入制になるため、運動離れが顕著になり、体力の低下に対する懸念がある。 ●困難やストレスを感じた時に、それを乗り越え回復していく力を育てる必要がある。</p>	



重点目標 4	キャリア教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 基礎的・汎用的能力を構成する4つ能力の育成(つながる・みつめる・うごくいかす・めざす)</p> <p>2 将来の夢や目標と学業を結びつける教育活動の工夫</p> <p>【成果】</p> <p>○すべての教育活動において、キャリア教育を意識した取り組みが定着しており、着実に力がついている。</p> <p>○キャリアに関する講演会や、職場体験を通じて、将来の自分の姿を考えることができていた。</p> <p>○地域との協同体験学習を行うことで、地域の文化や伝統を知るとともに、生き方に学ぶことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>●生徒たちにも基礎的・汎用的能力を構成する4つ能力を意識させ、どんな力を身につけることができたかを自己評価させたい。</p>	

重点目標 5	“学び舎”の礎	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 学校組織の活性化 2 自己研さんの推進(教えのプロとしての自覚) 3 学びの一体化の推進 4 保護者・地域との協働</p> <p>【成果】</p> <p>○色々なことがデジタル化され、教育方法の変化が求められる中、職員室内が前向きで、積極的に情報の共有、協力を行う雰囲気がある。</p> <p>○学びの一体化では小中での対話を重ねることで、学校区全体で教育する体制、とりわけICT教育環境推進につながった。</p> <p>○学校HPや通信、学校公開週間等、学校からの情報発信を高頻度で行うことで、保護者や地域の方に学校を応援していただくきっかけになった。</p> <p>【課題】</p> <p>●学びの一体化をさらに推進する。ICTを取り入れた実践を多くしている小学校で身に着けた力を滑らかに引き継ぎ、伸ばしていくことが大切である。</p>	

## 2 改善方針

- 常にビジョンを意識し、今後も、一つひとつの活動に丁寧に取り組む意識を継続する。
- 職員室の風通しの良さを継続し、教職員がともに高めあい、補いあうチーム力を高める。またそれによって、それぞれが自分がすべきことを意識し、挑戦することで個々の力をさらに向上させる。
- さらなるキャリア教育の充実を図り、すべての教育活動がそこへ集約され、社会で生き向く力を育成する。
- 学びの一体化の有効活用を図り、小学校で身に身につけた力をさらに伸長する。
- ICTを取り入れた活動が増えてきているが、一方からの発信だけでなく、双方向のやり取りが生まれるような活動を行いたい。
- 補充学習の充実・語彙力等読解力の向上を図るための「港タイム」がすべての生徒にとって充実した活動時間になるよう、個別最適化をめざし、改善につなげる。
- 伝統の「あいさつと清掃活動」は生徒に定着しているので、これからも大切にしていきたい。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 塩浜中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の向上・・・知	3
主な方策 成果と課題	<p>＜基礎的・基本的な力の定着＞ ○小規模校の特性を活かし、生徒一人ひとりの個性や能力をよく見極め、きめ細やかな教育活動を行うことができた。</p> <p>＜授業の工夫・改善＞ ○タブレットの使用回数を多くし、対話を重視した授業を展開することができた。 ○研修委員会や学びの一体化を中心に授業改善に取り組めた。 ○今まではデジタル教科書を使うのが中心であったが、今年度はテキストをPDFにして提示することができ、時間短縮ができた。</p> <p>＜コミュニケーション能力の育成＞ ○3年生でコミュニケーション能力向上の講座を持つことができた。 ●授業では「なぜ?」「どうして?」と説明できる問いを意識的に取り入れたが、全体での活動だったため、一人ひとりの力につながるのは難しかった。</p>	
重点目標2	いのちを尊重する教育の創造・・・徳・体	3
主な方策 成果と課題	<p>＜道徳・人権教育の充実＞ ○道徳の授業では、同じ題材で学年によって違った授業になり、参観することで自己研鑽につなげることができた。 ○人権作文の作成と発表を行い、生徒の人権意識を高める一助となった。</p> <p>＜将来を見据えたキャリア教育＞ ○職場体験学習を実施することにより、働くことの生きがい、大変さを知ることができた。 ○1年次から3年間を見据えた指導計画になっている。</p> <p>＜性教育、食育、健康教育の推進＞ ○性と命の講座、食育担当の教員による定期的な指導、学びの一体化で小中連携した保健指導を実施できた。 ○保健だよりを定期的に発行し、心身の健康の大切さを説いた。 ●全体としての保健指導はできたが、個別の指導にはまだ至っていない。</p>	
重点目標3	地域・家庭との連携した学校	3
主な方策 成果と課題	<p>＜学校自己評価・学校関係者評価の実施＞ ○学校評価アンケートを年2回実施し、それをもとに職員やコミュニティスクール運営協議会委員で、日々の教育活動を振り返り、今後の学校づくりにつなげることができた。 ●電子媒体で行うことが定着してきたが、保護者の回答率が高いとは言えない。</p> <p>＜情報の発信・受信＞ ○学校だよりや学年（学級）通信、ホームページ等により学校の情報をこまめに発信し、学校自己評価アンケートでも生徒・保護者とも高い満足度になっている。</p> <p>＜地域との連携＞ ○コミュニティスクール運営協議会委員、PTA役員、民生委員、地区防災協議会等と、各行事や面談を連携して行うことができた。 ○地域の方に四日市公害について講話をしていただいたり、地域の企業で環境学習を行ったりして、地域と密着した取組ができた。</p>	

重点目標 4	特別支援教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>＜校内支援体制の確立＞</p> <p>○特別支援教育推進委員会を定例化し、支援体制の充実、及び生徒の情報交換に努めている。委員会の内容は、非常勤講師も含め全職員で共有している。そうすることで、授業者や担任だけでは厳しい場面でも、教科や学年を超えて対応できている。</p> <p>○必要な授業における支援担当教員の配置ができた。</p> <p>○非常勤講師も含め全職員が特別支援学級の授業を担当しており、該当生徒の状態を把握しやすい。</p> <p>○スクールカウンセラーやSSWが来校したときには、担任や養護教諭と一緒に家庭訪問を行うとともに、専門的な立場から助言をもらい、個別の支援に役立っている。</p> <p>＜個に応じた教育の実践＞</p> <p>○日本語指導が必要な生徒に寄り添い、授業の内容を理解させるようにした。</p> <p>●授業者と支援担当教員との連携が不足していることがあるので、より強固なものにしたい。</p>	

重点目標 5	教師力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>＜校内研修の充実＞</p> <p>○授業を参観し合う機会を可能な限り設けて事後反省会を持ち、個々の授業力が向上するように努めた。</p> <p>○校内研修、授業研、コンプライアンス研修等が充実している。研修で学んだことが日々の職場のよい雰囲気活かされている。</p> <p>○校内研修会ではどの職員も忌憚のない意見を出し合い、他者のよい部分を取り込めて有意義だった。</p> <p>●職員一人ひとりが自己研鑽を積み、3年間のカリキュラムマネジメントを持つ。</p> <p>＜保小小中の連携＞</p> <p>○体育授業における職員間の研修が実施できた。</p> <p>○「学びの一体化」では異校種の教育活動を知ることができ、視点が増えて考え方の幅が広げることができた。</p> <p>●中学校から小学校への乗り入れ授業の回数を増やすのは難しい部分がある。</p>	

## 2 改善方針

- ・学校づくりビジョンのさらなる浸透を図るために、具体的方策を常に意識した学習活動や学校行事の立案に努める。
- ・働き方改革を意識しながら、全職員が充実感を持って生き生きと働き、生徒にとって模範的な行動・言動を心がける。
- ・県や市が主催する研修会に積極的に参加し、一人ひとりが学んできたことを還流して、個々の教師力を向上させる。
- ・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェック、あるいはリテラス等の結果を多角的に分析し、学力や言語活用能力のさらなる定着を図る。
- ・家庭での学習が定着するように、個々の強みと弱みに応じた課題（宿題）を与え、生徒一人ひとりが学ぶことの楽しさを身に付けることができるように促す。
- ・不登校生徒や課題のある生徒に対して、今後もスクールカウンセラー、SSW、教育相談員、民生委員、あるいは外部の専門機関等と連携をさらに強化し、生徒が安心・安全な学校生活（家庭生活）を送ることができるようにする。
- ・学校評価アンケートの結果をもとに、生徒・保護者・地域からより信頼される学校づくりに努めるとともに、全職員が「チーム塩浜」の一員として自覚を持つ。



【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 山手中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>コロナ禍をきっかけに進んだICT機器を活用した教育活動において、効果的な活用を進められるとともに、徐々に定着させることができた。また、小集団を活用した教育活動も徐々に復活させ、グループ学習やペア学習を進めることができた。</p> <p>重点目標に対するアンケートの平均値は、「わかる授業」では教師3.2ポイント、生徒3.4ポイントとなり、「適切な評価」では教師3.3ポイント、生徒3.4ポイントと比較的高い評価となった。具体的な成果としては、</p> <p>(1) ICTを活用した授業を定着させるとともに、効果的な活用を推進できた。</p> <p>(2) TTを活用し、支援が必要な生徒に対して引き続き柔軟に対応できている。</p> <p>一方、課題としては、</p> <p>(1) 授業で理解した学習を定着させるための手立て。学習習慣が定着していない生徒への個別の対応。基礎学力に課題がある生徒の学習習慣の定着。</p> <p>(2) ICTによる教育活動の推進において、より効果的に活用できるよう教員の力量の向上。</p> <p>などが挙げられる。さらに研修を深める必要がある。</p>	
重点目標 2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>教育相談やふれあい指導等を通して、日常的に生徒に寄り添い、話を聞ける機会を確保し、生徒の心の状況を把握した。SNSを介した、コミュニケーション力の未熟さからくると思われるトラブルが多く、授業や日常の会話でも指導している。学校における啓発は継続する一方で、家庭におけるルール作りやマナー指導が大いに必要である。道徳の授業では、十分に時間を確保し、生徒に考えさせる機会を大切にしてきた。また、日常活動のあらゆる場面において道徳教育の観点をもち、指導に活かしていきたい。</p> <p>重点目標に対するアンケートの平均値は、「道徳や人権・同和教育の充実」では教師3.2ポイント、生徒3.6ポイントとと比較的高い評価となった。</p>	
重点目標 3	よりよい未来を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>生徒自身が自分のよりよい未来を創造するための手立てとして、修学旅行や職場体験、地域学習などを通じたキャリア教育を進めるとともに、日常の教育活動の場面においても協働的な学びや活動の場面を意識して設定した。また、進路通信を3年生だけでなく、1、2年生にも知らせるとともに、全学年の保護者にも配信することで、キャリア教育を進めた。</p> <p>重点目標に対するアンケートの平均値は、「特色ある教育課程の編成」では教師3.0ポイント、生徒3.4ポイントとなり、「進路指導の充実」では教師3.2ポイント、生徒3.2ポイントと比較的高い評価となった。</p>	

重点目標 4	子どもの能力を伸ばす学校組織	3
主な方策 成果と課題	<p>自分たちの学校生活を振り返る中で、校則の見直しを行った。また、誰にとっても生活しやすい環境を考え、個に応じた配慮や支援を行った。</p> <p>不登校や不登校傾向の状況にある生徒数は増加傾向にあるため、校内サポート教室の活用や、SC、他の機関と連携を取りながら効果的な指導に当たった。</p> <p>また、日々の生活や、体育祭、文化祭等の学校行事を通して、より良い人間関係を構築するとともに、子どもの能力を伸ばすため、自分で考え、判断し、行動する場面を意識して設定した。</p> <p>重点目標に対するアンケートの平均値は、「生徒指導上の問題への対応」では教師3.5ポイント、生徒3.4ポイントとなり、「充実した学校生活」では教師3.3ポイント、生徒3.4ポイントと比較的高い評価となった。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>学校の施設設備については、老朽化が進み、修繕すべき箇所が多いこともあり、生徒、教員ともに日常的に不便さを感じている。</p> <p>重点目標に対するアンケートの平均値は、「学校施設・設備の環境整備、有効活用」では教師2.5ポイント、生徒3.1ポイントで、保護者に対する同等の回答でも2.8ポイントで、共通して低い値となった。要因としては、施設や設備の老朽化が挙げられる。</p> <p>施設設備については、危険度の高いものから、修繕・改修を行い、施設・設備が原因となる「防げる事故」を無くすように努めた。しかし、予算や修繕の規模により、年度内に修繕が叶わなかった箇所も残されているため、次年度に引継いでいきたい。</p> <p>交通安全意識については、毎年のように、登下校中の自転車通学者の交通事故が多発している。本年度も、幸いにも大事故には繋がらなかったものの、自動車との接触事故が複数件あり、ヒヤリハットを含むとかなりの潜在的な危険があると推測できるため、より一層、交通安全に関わる指導が必要である。</p> <p>校区の小学校とは連絡を密にし、同じ方向性での対応や指導を行えるようにしている。学びの一体化の取組として、中学校の教員が年間を通して、小学校の授業に参加できたことは、今後の指導に大いに役立つと考えている。</p> <p>定時退校日の設定や各種会議の時間確保、定期テスト後の採点時間等の確保、行事の精選等、業務のスリム化を図り、昨年度よりも時間外勤務は減少した。</p>	

## 2 改善方針

- ・「チーム山手」として職員が動ける体制を強化していく。横と縦の報連相をより確実にするとともに、初動体制をより早く動ける体制を推進していく。
- ・継続的な発信力の向上。学校ホームページの更新を今年度同様に頻繁にして、学校の様子を発信し、ネット上からも開かれた学校としていく。
- ・前例踏襲ではなく、アップデートすべき事項を常に模索し、行事や活動の計画および実行に反映させていく。
- ・特別支援や登校サポートに焦点を当てた研修を推進する。
- ・日常の生活や学校行事、授業等において、自ら考え、判断し、行動に移していく場面を意識して設定していく。
- ・論理的に物事の説明をできる能力の醸成を見据えた授業づくりや、自己決定の場を意識的に設けていく企てなどができるように、校内研修会やOJTを通して職員のスキルアップを図っていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富洲原中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学びの協働体づくり、学び合う授業づくり 聴き合い、学び合うかわりを大切に、ひとり一人の生徒が意欲的に取り組み、響き合える授業を作ります。	3
主な方策 成果と課題	(1)研修会の充実による授業力の向上 (2)「学びの一体化」の取組の充実 (3)体力の向上 (4)生徒の学習意欲と学力の向上 ○ゼミ制度をとり、研修委員がメンターとなり、授業公開や事後研修会（メンタリングタイム）をゼミごとに行う形をとることで、教科の垣根を越えて、生徒の姿中心の話し合いができるしくみを取り入れることですべての教師をサポートし、互いに楽しく学び合える研修環境を整備した。 ○共通理解のもと、「指導と評価の一体化」を意識した単元・授業の開発を通して、「単元を貫く問い」と「パフォーマンス課題」を連携させた実践や、ルーブリックをもとにした形成的アセスメントに関する評価方法の実践等を進めることができた。 ○メンター制をとったことにより、教師間の授業等に関する交流が活発になり、生徒が主体的に参加する授業づくりが進められた。 ●「学びの一体化」の取組では、4校園で取組の計画や内容をどのようにつめていくかという部分で課題が残ったので、来年度は年度始めにすべての日程等の計画を決定しておいたり、早めに取り組み内容等を協議していきたい。 ●基礎学力の習得が学習意欲や学力の向上に大きくかかわっている生徒が少なからずいるので、ベーシックタイムの取組を中心に、基礎学力の向上と学習習慣の定着が必要である。	
重点目標 2	仲間づくり、ケアリング 生徒と生徒、生徒と教師、教師と保護者が互いに聴き合い。気持ちを理解できる柔らかな人間関係を育みます。	3
主な方策 成果と課題	(1)全職員による教育相談、特別支援教育の充実 (2)温かみのある生徒指導 (3)人権教育や道徳教育、体験活動の充実 (4)気持ちを理解し合える人間関係の育成 ○生徒玄関や教室前での朝の挨拶や健康観察を継続して行っている。また、休み時間等に、生徒の様子の見守りや声かけを行い、一人ひとりに寄り添う支援を行っている。 ○学期に1回以上の教育相談を実施している。また、全職員で全生徒の情報の共有を図り、適切な支援・指導を行うように努めた。 ○各種委員会を中心に生徒の様子や特性を理解し、先を見通した指導を行うため、S C、S S W、通訳、登校サポートセンターなど、専門機関の活用を模索することができた。	

重点目標 3	地域とともにある学校づくり 学校内外で地域とともにある教育活動に取り組み、生徒・保護者・地域・学校の相互理解を図ります。	3
主な方策 成果と課題	<p>(1)教育活動を積極的に公開  (2)地域（人材・歴史・文化・産業）を学習の舞台として活用  (3)生徒の自主活動・体験活動の充実  (4)学校や生徒の活動が見える学校環境の整備  (5)部活動を通しての人間形成  (6)総勤務時間縮減に向けた取り組み</p> <p>○授業参観や総合的な学習の時間の発表会の実施、学校HPや通信などを通じて、地域や保護者に学校教育活動の情報を積極的に発信するなど、生徒の主体的な学びの姿をみていただく機会を増やした。また、生徒が地区防災訓練など地域の行事に積極的に参加するなど、地域とのつながりを大切にしている。</p> <p>○あいさつ運動・ピンクシャツデーの取組など、生徒会を中心とした活動を行うことで、生徒自身に学校生活での望ましい姿などを一緒に考えていくことができた。</p> <p>●定時退校日には電話対応時間を勤務時間内とし、定時退校できる環境づくりに努めたが、教員減や出張の増加等により、仕事量が増え、総勤務時間縮減とはならなかった。</p>	

## 2 改善方針

<p>○今年度実施した、研修の「メンター制度」をより充実させ、来年度も生徒と教師に学びがある研修を推進していく。</p> <p>○「ベーシックタイム」の取組を進めるとともに、習熟度別等柔軟な指導形態を模索し、基礎学力の向上を目指す。</p> <p>○本校のビジョン目標である、「やわらかな環境や空間づくり」を意識し、朝のあいさつや休み時間の見守り等継続しながら、生徒をしっかり見守り、丁寧にかかわっていくことにより、事故や問題の未然防止に努める。</p> <p>○学びの一体化については、児童生徒の強みや弱みなど、現状を把握した上で、系統立てた取り組みとなるように連携を深めていく。</p> <p>○地域とのつながりを大切に学習を続けていく。</p>
---

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 富田中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	授業を大切にしている学校	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業に関する項目で「楽しく学べ、自分を高めることができているか」「考える・話す・表現することに意欲的に取り組んでいるか」では、生徒の肯定的な回答は75%前後にとどまった。真摯にこの数値を受け止め、今後も教員同士で授業を見合ったり、授業に関する研修会で学びを深めたりするなど、授業改善に継続的に励みたい。一方、「タブレットは学習の役に立っているか」という質問では、3年生が昨年度に続き100%肯定的な回答をするなど、全学年で高い数値が見られた。今後も、効果的なICT機器の活用に向けて研鑽を深めたい。</li> <li>・ 「家庭での学習に自主的かつ日常的に取り組んでいるか」という質問では、生徒の66%の肯定的な回答にとどまった。「家庭学習のあり方」について再度検討し、生徒自らが進んで学校外での学習に取り組めるよう、タブレット等のICTの活用も含め指導し、保護者への理解・周知にも努める。</li> </ul>	

重点目標 2	一人一人を大切にしている学校	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分のことを大切だと思っているか」という質問では、肯定的な回答をした生徒が80%と昨年度並みの結果となった。今後学校全体として、総合的な学習の時間、学活、道徳の時間、学校行事を柱として、カリキュラムを見直し、取り組んでいきたい。</li> <li>・ 「学校は安心して過ごすことができる場所となっているか」という質問では、生徒の肯定的な回答が81%にとどまり、近年では低い数値となった。真摯に受け止め、人権教育推進委員会と生徒指導委員会を中心に取組内容を精査したい。具体的には、人権フォーラムやメディアリテラシー養成講座を柱に、全校で人権について考える集会を継続したり、休み時間の教員による見守りを継続して、生徒の様子をより詳細に観察したり、毎学期全生徒対象に行っている教育相談に関わる研修を充実させたりしたい。</li> <li>・ 「まわりの人の気持ちを考えて生活できているか」「どんな理由があってもいじめはいけないことだと思うか」「先生たちは生徒一人一人を大切にしているか」という質問は90%前後の肯定的な回答を得た。学校生活に困り感を抱えている10%の生徒に視点を向け、学校が誰にとっても安心して過ごすことができる場所になるように、指導や支援を継続していきたい。</li> <li>・ 「先生たちは授業などで生徒たちが困らないように、指導や支援を工夫しているか」という質問では、昨年度と同様、90%以上の生徒が肯定的に回答している。今後も、すべての生徒たちにとって学びやすい環境（ユニバーサルデザイン）が整っているか、チェックを欠かさず、改善をはかりたい。</li> <li>・ 教室に入りづらいと感じている生徒に対しては、校内登校サポート教室「WAVE」を充実させ、「生徒一人一人を大切にしている学校」の実現に迫っていきたい。</li> </ul>	



重点目標 3	保護者や地域と協働し高める学校	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に一度を目安に授業公開期間を設定し、保護者の方に実際に生徒の姿を見てもらう機会を設けている。また今年度は夏休み中にPTAが主催して親子での除草作業を行った。</li> <li>・「地域の人や保護者と協働した学習や活動に取り組むことができましたか」という質問では生徒50%、教師85%が肯定的な回答であった。職場体験学習だけでなく、「中学生と語る富田の未来」や地域内のフィールドワークなど地域の方々と生徒が接する機会が多いにもかかわらず、生徒と教師で開きが見られる。今後、地域との協働について生徒への意味づけを明確にして、生徒にとって有意義な取り組みとなるよう改善を進めたい。</li> <li>・よりよい地域との協働を進めるために、地域の関係機関と開催時期など現在協議を行っている最中である。来年度は、海に近い富田中学校の地理的特徴を考慮し、防災を軸に生徒が地域の方々と協働して学ぶ機会を設定する見通しである。引き続き、地域の関係機関やコミュニティスクール運営協議会委員と適切に連携しながら、取組を充実させるとともに、地域の人財や資源をうまく活用したい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>「学校づくり三つの決意」〈令和6年度の具体的な取組内容・改善点〉</p> <p>1 授業を大切に作る学校  確かな学力の定着について  個人授業研修をはじめとする授業公開を軸とした「主体的・対話的で深い学び」の実現及び「問題解決能力向上」のための授業づくりを推進していく。また中学校区の「学びの一体化」をいかにして、こども園や幼稚園・小学校との連携による学びを一層深めていく。</p> <p>2 一人一人を大切に作る学校  自分も他者も大切に、認め合い高め合える人権教育の実践について  「自分のことを大切である」と実感できる生徒の育成を目指し、教科授業だけでなく総合的な学習の時間、学活、学校行事を人権教育の視点でとらえ、生徒同士のつながりを意識した活動を進めていく。</p> <p>3 保護者や地域と協働し高め合う学校  保護者との双方向の情報共有について  学校公開、学校・学年だより、ホームページ等で積極的に情報公開するだけでなく、家庭訪問やHome&amp;Schoolを活用しながら保護者の声に耳を傾け、思いに寄り添い、相互に対話できる関係づくりを進めていく。  地域等の教育資源を活用した教育活動の実施と地域活動への参画について  コミュニティスクールの効果的運営・活用など、地域の人材や資源を生かし地域との連携・協働を進める。地域の伝統行事等に生徒が積極的に参加し、まちづくりに貢献できるようにする。</p>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 笹川中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力	3
主な方策 成果と課題	<p>①授業改善・学習改善（学力向上） ②学力補充 ③学力定着につなげる家庭学習 ④生徒の学習意欲を喚起する授業 ⑤コミュニケーション力の育成</p> <p>（成果） ・教科部会を通して、みえスタディや全国学力・学習状況調査の結果を分析したり、評価について意識の共有を図ったりして、授業改善に努めた。 ・個に応じた指導を意識し、デジタル教科書等のICTを積極的に活用しながら、生徒の学習意欲を高めたり、理解を促進したりするような活動を行うことができた。</p> <p>（課題） ・授業におけるICTの活用をこれまで以上に推進しながら、今後は、家庭学習での生徒用タブレットの活用を進めていく必要がある。 ・笹っ子タイムの取り組みを1年間行ったが、今後、さらにコミュニケーション能力をつけられるよう工夫していく必要がある。</p>	
重点目標2	豊かな心、健やかな身体	3
主な方策 成果と課題	<p>①心や命を大切にする教育 ②読書活動の充実 ③体力・運動能力の向上 ④健康教育、食育の推進 ⑤基本的な生活習慣の確立</p> <p>（成果） ・道徳が特別の教科になって以来、教材研究も進み、道徳の授業がより深まったものになってきた。生徒の感想などからも、理解が深まっていることがわかる。 ・継続して行っている西日野にじ学園との交流を今後も続けてきたい。また、近隣にある作業所などの施設についても交流をしていきたい。</p> <p>（課題） ・人権を尊重し、いじめや差別を許さない「仲間づくり」をさらに進めていく必要がある。そのためにも、教職員の人権意識向上の取り組みを計画的・組織的に推進していく必要がある。 ・道徳、人権学習等の取り組みを学校公開に合わせて計画し、保護者・家庭との連携を図っていく必要がある。</p>	
重点目標3	よりよい未来、社会を創造する力	3
主な方策 成果と課題	<p>①生き方につながるキャリア教育 ②地域の資源を生かした教育 ③安心・安全な笹川中であるために ④社会性を身につける ⑤現代的な課題に対応する力</p> <p>（成果） ・高校進学を中心とした進路指導だけでなく、生徒自らが調べ、考えることを通じた職場体験を実施することで、一人ひとりの将来を見通したキャリア教育を進めることができた。 ・今年度は全ての学年が進路や職業体験等をテーマに、外部講師を招聘した「マナー講座」を実施し、コミュニケーションの大切さ等について学びを深めることができた。</p> <p>（課題） ・自転車通学の生徒を中心に、登下校時における通学のマナーや事故を回避する意識の向上をさらに図っていく必要がある。</p>	

重点目標 4	全ての子どもの能力を伸ばす教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>①生徒の学習意欲を喚起する授業の創造 ②やる気につながる評価 ③生徒一人ひとりを大切にできる指導 ④特別支援教育、登校支援の充実</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、全生徒を対象とした教育相談を各学期に行ったり、Q U 調査等の結果を検討・活用したりして、計画的に生徒理解の取り組みを進めている。</li> <li>・校内ふれあい教室の取り組みにより、本来なら不登校になりそうな生徒も、毎日登校することができている。不登校の初期対応として効果的である。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援の必要な生徒が年々増加しており、全職員が様々な対応についての研修を深め、学校全体として対応力を高めていく必要がある。</li> <li>・校内ふれあい教室に通う生徒の学習をどのように評価するか、学校全体で考えていく段階に入っている。</li> </ul>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>①学校経営の充実 ②生徒指導の充実 ③学びの一体化の推進 ④地域と協働した開かれた学校づくり ⑤教職員の資質・能力の向上</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導委員会や研修委員会、特別支援教育委員会、登校サポート委員会をそれぞれ毎週1回行い、計画的、組織的な指導を行うことができた。</li> <li>・学校ホームページや学校通信、授業参観、学校公開日等を通して、定期的に地域や保護者に情報発信を行うことができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の生徒対応や授業規律の確立等をしっかりと行い、一人ひとりに合った指導や学級全体の指導の確認をしていくことが大切である。</li> <li>・年間を通した研修計画を見直し、授業公開、研究授業の持ち方、あり方について、より効果的な実施方法を検討していく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>学校づくりビジョンに掲げた、「めざす生徒像や学校像」をより明確にして、教師、生徒、保護者、地域にわかりやすく周知し、取り組みを充実させていく。また、どの分野においても積極的に対話を重ね、教師も生徒も「主体性」を高める取り組みを進める。さらに、開かれた学校を目指して、情報発信を積極的に行う。</p> <p>●確かな学力の定着【基本目標1】・学校教育力の向上【基本目標5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な研修を充実させることで授業改善を進め、生徒の資質・能力の向上に努める。また、学校業務を見直し、ワークライフバランスの適正化を図ることで、教職員の資質・能力を向上させる。</li> </ul> <p>●豊かな心、健やかな身体の育成【基本目標2】・全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現【基本目標4】・学校教育力の向上【基本目標5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導、人権教育、特別支援教育、登校サポート等において、組織的・計画的な取り組みを充実させる。また、今年度から始めた「笹っ子タイム」等の取組みを充実させ、コミュニケーション能力やソーシャルスキルの向上を図る。さらに、登校サポートや合理的配慮など教職員の視点や意識のベクトルをそろえ、支援の必要な生徒に対し、さらにきめ細かな指導に取り組んでいく。</li> </ul> <p>●よりよい未来、社会を創造する力【基本目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な外部講師の招聘を行い、キャリア教育を充実させると共に、SNSトラブル回避に向けての教育を家庭と連携しながらさらに充実させていく。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 南中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	I 学力の定着と充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>*主体的・対話的で深い学びの実現</li> <li>*確かな学力の定着と読解力の向上</li> <li>*ICTを活用した積極的な授業改善</li> </ul>	4
主な方策 成果と課題	<p>○ICTやタブレットの活用では宿題配信、リモートでの活用、調べ学習、プリント配信、アンケート調査、小テスト、リスニングの学習など色んな場面での活用が見られた。またICTやタブレットの活用では研修員会やOJTを中心とした研修を深めていきたい。</p> <p>○わかる授業研修を中心とした少人数指導、学習指導員の活用、学習支援などより生徒が分からない部分に対して寄り添う体制ができた。</p> <p>●主体的、対話的で深い学び・読解力向上を目的とした「子ども同士をつなぐ」「読解力を育む20の観点」の全教科での共有・実践を行えた。課題としては、もっと20の観点を意識した授業実践研修会や主体的に学習に取り組む態度の評価について、少し慣例化しつつあるものから研修を通して深めていきたい。</p> <p>●総合や道徳だけでなく、教科の授業を見合う機会をもっと増やして行って、授業改善を日々続けていきたい。</p> <p>【生徒アンケート】先生は授業をていねいに分かりやすく教えてくれ、楽しく授業を受けている。タブレットを使って学習している。⇒3. 2</p> <p>【生徒アンケート】授業で学習したことは、将来の役に立つと思う。⇒3. 1</p> <p>【保護者アンケート】学校は、子どもたちにわかりやすい授業をするための工夫（ICT、タブレット少人数授業、グループ活動、実験や観察等）をしている。⇒3. 2</p>	
重点目標2	II こころとからだの健全な育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>*道徳・人権教育・読書活動の充実</li> <li>*仲間づくりを柱とした教育の充実</li> <li>*基礎的な体力運動能力の向上</li> </ul>	3
主な方策 成果と課題	<p>○体力テストの記録ボードが設置されたことや陸上記録会や体育祭の取り組みを通して、より個人の目標を意識したり、仲間と協力した体力向上について生徒が意識できりようになった。またそれぞれの担当（委員会等）を中心に学校全体で取り組む体制ができた。</p> <p>○「目の前の生徒」を大切にするという観点から四同研大会に向けて全校で人権教育について研修を深めることができた。四同研大会の取り組みや人権講演会や学年の人権学習では地域や保護者や関連機関と連携した取り組みを実践できた。また地域の人権学習会にも教師が積極的に参加することができた。</p> <p>●人権教育や道徳教育については、学年内で完成した指導案で各クラス実践したい。詰めきれていないまま担任の味付けに頼ってしまっていることもあるのではないだろうか。また授業で学んだことを日常生活へのつながりへ活かしていきたい。</p> <p>●メディアセンターの有効的な活用がされていると感じる。今後さらに読書活動を教員で一丸となって推進していきたい（朝読書の徹底、メディアセンターの利用の仕方、タブレットを使った市立図書館へのアクセスなど）</p> <p>【生徒アンケート】命の大切さや人権を大切に、差別をなくすための学習が実施されている。⇒3. 6</p> <p>【生徒アンケート】部活動に積極的に意欲的に参加し、目標を持って活動している。⇒3. 3</p> <p>【保護者アンケート】学校は、豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切に子どもを育てるようにしている。⇒3. 2</p> <p>【生徒アンケート】朝の読書やメディアセンターを活用して、充実した読書活動を送っている。⇒3. 0</p> <p>【保護者アンケート】朝の読書やメディアセンターの取組は、子どもたちの豊かな心を育むことに役立っている。⇒3. 2</p>	
重点目標3	III よりよい未来社会を創造する力の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>*夢の実現に向けたキャリア教育の推進</li> <li>*持続可能な社会を目指す教育の充実</li> <li>*防災・安全教育の推進する力の育成</li> </ul>	3
主な方策 成果と課題	<p>○避難訓練や防災教室や健康集会などを行い防災・安全教育の充実を図ることができた。</p> <p>○職場体験学習や講演会などを通して社会人としてのマナーやルールややりがいなどを学ぶ場を設定できた。また修学旅行や授業を通して、SDGsについて学習する時間を設けた。進路指導や教育相談を通して、将来に向けたキャリア教育や進路相談を行った。</p> <p>●1～3年生まで、見通しあるキャリア教育や進路相談を行ってきたい。</p> <p>●自転車の安全運転についてなど、常日頃からホームルーム等で生徒たちに意識付けを行うことができた。しかし安全に対する意識は、高くないように感じる。さらに安全に関して啓発し続ける必要がある。</p> <p>【生徒アンケート】先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる。⇒3. 3</p> <p>【生徒アンケート】あなたは、将来の夢や目標をもっている。⇒3. 0</p> <p>【保護者アンケート】学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。⇒3. 1</p> <p>【保護者アンケート】学校は、入試情報や職業について、将来を見通した進路指導に努めている。⇒3. 0</p>	



重点目標 4	Ⅳ 子ども能力を伸ばす 教育の充実	* きめ細やかな個に応じた指導の充実 * 教育的ニーズに応じた支援体制の充実 * 社会的自立に向けた支援の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○授業内の支援やあすなる教室と連携することにより、個に応じた指導を行うことができた。</p> <p>○カリキュラムマネジメントを通し、予算委員会をもって財務の観点から各種支援を行うことができた。</p> <p>○あすなる教室や教育相談員や SCやSSWや主任児童員など関連機関と連携して登校サポートに支援できた。教育相談やふれあい指導の充実に努めた。</p> <p>○教育委員会や主任児童員や児相や警察など関連機関と連携して生徒の個別支援を行うことができた。</p> <p>●登校サポートが必要な生徒の増加で、校内支援委員会内で登校サポートと特別支援を並行していくことが難しくなっているように思う。登校サポート、発達課題、家庭背景等、個別の対応が多くなってきているので、不登校と特別支援を切り離して考えていく必要があると思う。</p> <p>●登校サポートの必要な生徒や支援生徒の増加により、どうしても時間外勤務の時間が増加している。引き続き、支援体制の充実を図っていきたい。</p> <p>【生徒アンケート】あなたは、自分によいところがあると思う。⇒2. 9</p> <p>【生徒アンケート】先生は、生徒のふれあいを大切にし、親身になって接してくれる。⇒3. 3</p> <p>【保護者アンケート】学校は、挨拶に心がけ、子どものふれあいを大切にし、子どもが明るく楽しい学校生活を送れるようにしている。⇒3. 2</p>		

重点目標 5	V 学校教育力の向上	* 相互理解を重視した生徒指導の充実 * 地域と協働した学校づくりの推進 * 教職員の資質向上と働き方改革	3
主な方策 成果と課題	<p>○問題行動の対応を中心とした体制からの脱却を目指した取り組みを行うことができた。教師全体の指導体制の中にも、改善点を取り入れることができた。また、考えさせる指導を行えるように生徒指導委員会を中心にはたらきかけることができた。</p> <p>○部活指導員の活用や人権教育・環境教育などPTAや地域や関連機関との連携ができた。</p> <p>○OJTや教育ADVの活用から授業づくりや生徒指導や人権教育の深化について学ぶことができた。</p> <p>○教職員へ向けた給与関係の事務処理について、毎年の定例的の事務である事後確認や年末調整を働き方改革の観点から、業務の効率化を目指してICTを活用して取り組むことができた。</p> <p>○帰宅努力目標を設定し、全職員で時間外労働の削減に務めることができた。</p> <p>○通信やホームページやH&amp;Sを通して、地域の保護者に情報発信の充実に努めることができた。</p> <p>○ICT担当を中心に保護者アンケートや新入生説明会や自然教室説明会の動画配信を行うことができた。</p> <p>●超過時間の多さや多忙感があり、働き方改革として仕事の精選や下校時間を早めるなどが必要と感じる。</p> <p>●働き方改革の1つとして会議の時間や時間帯等をみんなで考えていきたい。開始時間や会議の設定時間等を行い、時間を無駄なく効率的に行いたい。</p> <p>●働き方改革、業務縮減のために行っている教育DXが新たな負担（感）とならないように、できることから順に推進していきたい。</p> <p>【保護者アンケート】学校は、保護者の相談・思いや願いに対し、学校の様子（各教科の教材・学校指定物品・給食等を含む）を保護者に「ホームページ」や「通信南風」等によく伝えている。⇒3. 3</p> <p>【保護者アンケート】フリー参観や行事を通し、学校を開き、保護者等の人たちが学校へ来やすくしている。⇒3. 3</p> <p>【教員アンケート】教職員としての資質向上できるよう、積極的に研修に取り組んでいる。⇒3. 6</p>		

## 2 改善方針

- ・風通しの良い職場から、みんなが働きやすい職場をつくりあげていきたい。また教員同士の対話を大切にしつつ、自身の働き方を見直す。
- ・学力向上に向けた研修の推進。ICT・タブレットを活用した授業づくり。OJTや教科部会の定期的開催。タブレットPCの活用、家庭学習との連携など重点的に行っていききたい。
- ・道徳・人権教育のさらなる推進や生徒に自信を持たせ、自尊感情を高める教育活動の推進。生徒一人一人を大切に、地域や保護者との連携を深めていく。
- ・登校サポートの必要な生徒・保護者の悩みを関連機関と連携を深め、個に応じた支援を進めていく。
- ・特別支援教育の推進。関連機関との連携や支援ファイルの活用や合理的配慮を進めていく。また個別対応が必要な生徒が多いので、丁寧に対応できる環境づくりを大切にしたい。
- ・キャリア教育の充実。生徒に寄り添った進路指導・教育相談・キャリアパスポートの活用・職場体験学習の充実と保護者や地域との連携。
- ・生徒指導の充実。生徒に寄り添った指導。教育相談の充実。保護者との連携。関連機関との連携。
- ・生徒指導の中で、生徒同士が問題解決に協働して取り組む教育活動の推進。
- ・働き方改革の推進。ICT活用や業務改善による時間外勤務時間の削減。
- ・地域とともにある学校づくり。情報発信と学校公開。CSによる地域から学校教育活動への参画。



【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 西陵中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着と向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○きめ細かく個別最適で多様な学びの構築 ○論理的な思考過程が充実する授業の創造</p> <p>全国学力学習状況調査において、国語・数学の正答率は全国平均値より高く、英語の正答率は全国平均値とほぼ同じであった。1、2年生は「みえスタディチェック」に取り組んだが、本校生徒は教科を越えて無回答率が低く、粘り強く考えようとする姿勢が見られた。結果を踏まえての指導の工夫や改善点を次のようにまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆躓きの原因を探り、語句の記憶支援や反復練習等を粘り強く進める。</li> <li>◆ICTの効果的な活用を進め、考えを適切に可視化する機会を増やす。</li> <li>◆生徒自らが納得できる答えを追求する過程を大切に授業づくりの継続。</li> <li>◆調査問題の共有を進め、教師それぞれが教科を越えての取り組みとしていく。</li> </ul> <p>学校アンケートの「分かる授業」についての質問では、97%の生徒が肯定的な回答をしており、今後も個別最適な学びの構築に向けて努力を継続していきたい。</p>	
重点目標 2	豊かな心と健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○対話と協働を通じた自他尊重の人格形成 ○自己の生き方を追求する「道徳」の実践 ○心身の健康・安全面等の自己管理の徹底</p> <p>学校アンケートにおいて、安心して学校生活を送れるか、また、教師は親身になって相談に乗ってくれるか、の質問に対して、肯定的な回答は生徒が100%、保護者も90%を超える高い数値が出た。これは日常的な見守り巡回や素早い問題行動への対応が、生徒や保護者からの信頼関係を構築している礎となっているものと思われる。しかし、生徒への質問項目の「将来の夢を持っているか」に対して肯定的な回答値が最低の82%であったため、日常的に達成感や自己肯定感を味わえるような機会を増やしたり、講演会や体験活動を軸としたキャリア教育を今後さらに充実させて、将来に明るい展望を持てる授業の工夫をしていきたい。</p> <p>さらに、いじめの認知や不登校問題について、解決に至っていないケースもあるため、道徳の授業を通して自分の生き方を追求する一助となるよう研鑽を続けたい。</p>	
重点目標 3	地域とともにある学校の構築	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒による地域活動への積極的な参画 ○家庭・地域へのきめ細かな発信と啓発 ○要望の積極的受信、素早く誠実な対応</p> <p>本年度、親子で参加する学校環境整備活動を2度実施したが、保護者の参加率も高く協力的であり、学校への関心が高いということである。それを生かしてさらに保護者との協力体制を揺ぎないものにしたい。</p> <p>学校評価アンケートの保護者の意見として、学校ホームページの更新の遅さについて指摘を受けた。来年度は丁寧な更新に心がけるとともに、メール一斉配信システムを効果的に活用したい。</p> <p>さらに本年度から、地域の各自治体で実施される防災訓練に生徒が参加した。昨年度までは参加は自由であったため生徒の参加はなかったが、今年は原則全員参加とした。災害時には中学生は地域の戦力である意識を持つよう事前指導して訓練に参加させた結果、中学生の参加について喜んでいただいた地区が多く、地域とともにある学校に一步近づけたことを実感できた。来年度以降も継続して取り組んでいく。</p>	

重点目標 4	学校の教育力・教師力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○「学校教育目標」を最上位に据えた合意形成  ○自己目標と対話による資質能力と組織力向上  ○課題の洗い出し等による工夫・改善と効率化</p> <p>本校の強みのひとつとして、小規模校であるが故に全教師が全生徒に対して指導にあたる点ができる点が挙げられる。全教師が見守ることができるため、学習に躓きがみられる生徒が多いクラスや教科に対して空き教師が教室に入り、指導の補助をすることができたことは、来年度も続けていきたい。</p> <p>課題としては、年々ICTの活用が進んでいく中で、格差が生じないように、実践的なソフトの活用などについて全教師での研修を続け、教師側の活用スキルを向上させることも年間を通して続けなければならない。もちろん生徒や保護者に対して、温かく途切れのないコミュニケーションは大事であるが、ICTの活用スキルを磨き、生徒へ還元されるものとして重視したい。</p>	

## 2 改善方針

<p><b>【確かな学力の定着】</b>  全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの誤解答などから見える傾向を、研修委員会や教科会を通じて適切に分析し、現状把握と改善について引き続き検討をしていく。また、生徒の個別最適な学びの構築のために、生徒の困り感に寄り添っていき授業実践に努めていく。</p> <p><b>【豊かな心と健やかな体の育成】</b>  各々のコミュニケーション力の未熟さを起因とするトラブルが多かったため、道徳や日常の人権意識啓発を通し、人権意識豊かな生徒を育成していく。また、不登校やいじめの未解決だった問題の解消・解決に向けて、一人ひとりに応じた丁寧な対応を、教師同士や保護者からの情報を共有しながら全員で取り組んでいく。</p> <p><b>【地域とともにある学校の構築】</b>  コロナ禍が一応の区切りに至ったことから、コロナ対策として制限してきた学校内外・地域の行事などについて見直しを進めていく。その中核を担っていただくコミュニティスクール運営協議会の方々の意見を参考にしたり、地域協力者の方々との「普段着での連携」を重視していく。</p> <p><b>【学校の教育力・教師力の向上】</b>  学校教育目標を中心に据え、合意形成を図りながら「チーム西陵」として何事にも取り組んでいく。主語を「自分」ではなく「西陵中は」にした意識を全員が持ち、資質能力と組織力向上を目指し、教師間のコミュニケーションも活発にしていく。</p>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三滝中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	【知】 確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は基礎的基本的な内容をていねいに分かりやすく教えてくれる」と回答した生徒は95%であった。教師が基礎・基本を定着させるための授業改善に努めることができた。</li> <li>・「授業中意欲を持ち、友だちと教え合ったり、深め合ったりして学習している」と答えた生徒が91%であった。コロナ禍を経て、あらためてグループ活動や話し合い活動等が充実できた結果と言えるが、より効果的な工夫改善は継続して取り組んでいく必要がある。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少人数指導や個別学習、ティームティーチングなど、一人ひとりに合わせて分かりやすく教えてくれる。」と回答した生徒は81%であった。少人数指導をより効果的に改善する必要がある。また、そのような授業の工夫などが保護者に伝わっていない結果も出ているため、授業内容の発信も併せて充実させたい。</li> </ul>	
重点目標 2	【徳】 豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校教育目標が『人を大切にする』であることを知っていて、その実現にむけて努力している」と回答した生徒が93%であり、学校教育目標を理解して活動できている。</li> <li>・「人権学習を通して、一人ひとりを大切に、いじめや差別を許さない態度が身についてきている」と回答した生徒が97%であり、昨年度より3ポイント上回った。記述回答で人権学習の大切さについて回答している生徒も多く、自分たちの学校が大切にしている時間に対して、誇りを持っている様子が感じられる。それらが日常生活の改善にもつなげていけるよう、教師側の意識も高く持っていきたい。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「『朝の読書』などの読書活動により、自分の読書に対する関心が高くなってきている」と回答した生徒は81%で、昨年度より3ポイント減少した。図書館の利用や司書の活用等、読書活動の取り組み方に工夫が必要である。</li> </ul>	
重点目標 3	【体】 健康・体力の向上 【安】 安心・安全	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学級や学年での友だち関係がうまくいき、楽しい学校生活が送れている」と回答した生徒が93%、「健康で安全な学校生活を送ることができている」と回答した生徒が96%と、学校が安心して過ごすことができる場所であると答えている。</li> <li>・「部活動や委員会活動に積極的に参加している」と回答した生徒は94%であった。多くの生徒が課外活動に積極的に参加できていると考える。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を含め、学校全体として、学校生活のルールが守られている」と回答した生徒が89%と昨年度より2ポイント低くなった。学年内の共有が課題である事象がいくつかあったため、「報連相」をきちんと行い教師間で生徒の情報や指導上の共通理解を図りながら取組（指導）を進める必要がある。</li> </ul>	

重点目標 4	【開】 保護者・地域・関係機関との協働・連携	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校を公開したり、学校通信を発行したりして、連携を深めようと努めている」と回答した保護者が93%で高い数値を維持している。Home&amp;schoolで学年通信を常に発信していることも評価をいただいている。引き続き、丁寧に情報発信を心がけていく。</li> <li>・体育祭や三滝祭（文化祭）では、参観制限がなくなり、大勢の保護者の方に来校していただくことができた。学校教育活動に関心が高い地域であることは大変ありがたいことである。</li> <li>・ホームページや学校通信等、情報発信してきたことで、ホームページの閲覧数も増えている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍を経て、参加行事の精選を行いながら、学校と保護者・地域とがどのように連携を図っていくか、協議しながら検討していく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>○ 学校づくりビジョン達成に向けて、引き続き、教科指導、学級経営、生徒指導、進路指導等に対し、『チーム三滝』を意識して取り組むことが大切である。</p> <p>○ 学力向上の取組・教科学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面において、生徒、保護者の肯定的評価が一層高まるよう、指導の充実を図り、取組の発信に努める。学力向上システム『MITAKI』の実践継続、学習用タブレットの効果的な活用、個に応じた指導、教員の授業実践研修の充実や基礎学習・補充学習の活用・充実を図る。</li> <li>・地域子ども教室『三滝未来塾』の参加が増加している。生徒の学習支援の場としてより有効な活動となるよう、地域協力者との協議を重ねていく。</li> </ul> <p>○ 落ち着いた学校生活環境の継続徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援・不登校対策委員会を中心にSCやSSW・各関係機関との連携を図りながら相談体制・支援体制を充実させていく。また、生徒による校則見直しの取組みを充実させ、自分たちの学校を自分たちでつくる意識の高揚につなげる。</li> </ul> <p>○ 人権・福祉・環境教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の大きな取り組みの一つである、一人暮らし等の高齢者の方への色紙を贈る取組は、地域と学校をつなぐ貴重な活動として継続（協力）していきたい。</li> <li>・さまざまな分野の方と生徒との交流体験の充実を図る。</li> </ul> <p>○ 家庭や地域の信頼に応える学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な通信の発行及び学校HPの更新による情報発信は学校の大切な取組となる。コロナ禍を経て、さらに地域との連携に努め、教師・生徒の地域への参画・協働を進める。</li> </ul>
---



【様式1】

自己評価書

四日市市立 大池中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>《自ら学ぼうとする授業(仕掛け)づくり》 物事を自分事と捉え、3年先、5年先の進路について考えあったり、思考・判断を問う課題の設定を意図的に強化授業に仕組んだりすることで、問題を整理し、解決に至るまでの筋道を立てたりできる学習が成立できるようになった。</p> <p>授業でICTを活用するだけでなく、宿題や予定連絡、予定変更連絡についてもICTを活用することで、不登校の生徒や欠席者にも広く学習内容や進捗状況を伝えることができた。</p> <p>教育委員会主催の講演や学活・道徳等を通じて、家庭でのスマートフォンをはじめタブレットの適切な活用、学習に役立つ情報活用の指導を広く進めることができた。</p> <p>週1時間程度、英語指導員に授業に入ってもらい、言語活動の更なる充実を図ることができた。授業ではほぼ毎時間ICT機器を活用し、効果的な言語活動の一助とした。</p> <p>全国学力・学習状況調査の分析を行い、結果を生徒へ返して振り返り学習に取り組んだ。しかし、さらなる向上に向けての取り組みという点においてはまだまだ不十分であった。</p> <p>少人数指導などにおいては十分取り組めていなかった。</p>	
重点目標 2	豊かな心と健全な体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>《自分のよさに気づき、他者を認める》 視覚障がい者との体験学習を通じて、社会の福祉政策や環境整備だけに注視せず、心を通い合わせて少数の声を聴こうとする態度と社会を変えていこうとする考えを身につけることができた。</p> <p>適宜学年内で協議し、より学びが深まる指導について考えながら授業計画できた。</p> <p>教育委員会や社会福祉協議会と連携を図り、講演・演習を通じて学びを深めることができた。また、校内研修会で公開授業を行い、教職員間で討議することで、更なる研鑽を積むことができた。</p> <p>主運動の課題や本時で身につけさせたい力と関連させた運動を取り上げることができた。自分と他者を見比べるためにタブレットを使用することができた。</p> <p>体育祭を通して、学級の仲間と協力することの大切さを知り、勝敗にかかわらず楽しむこと、人の頑張りを認めてあげている様子が伺えた。</p> <p>道徳及び人権学習について、年間を通して継続的に取り組むことができた。</p> <p>個人情報の発信(SNS)に関して、軽く考えている生徒が多いため更なる学習が必要である。</p>	
重点目標 3	よりよい社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>《夢や志の持てるキャリア教育の推進》 キャリアパスポートや適性検査、職業調べを通じて、3年後の自分、職場体験学習へのモチベーション、進路選択の意義を学ぶことができた。</p> <p>職場体験学習を行ったことにより、発表時には働くことの大切さや苦勞、見えていない仕事について発表し、自身のこれからについて考えることができている様子が伺えた。</p> <p>学期ごとに避難訓練等を実施することができ、地域の安全避難区域や避難所ルートまでの確認を行った。地域の一員となって互助できる中学生となることを目指して指導した。</p> <p>そらんぽ見学で、四日市公害に対する関心を高めることができた。</p> <p>地域にある環境保全活動に参加し、国の天然記念物の植物群を守るための除草作業を行い、SDGsなどに関する学習に取り組めたが、まだまだ不十分だと考える。</p>	



重点目標 4	子どもの学びを支える学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>           ≪「人づくり」の場としての学校の実現≫ ≪「チーム学校」としての協働・連携≫            支援ファイルを活用し、保護者の願いを聴きとり、教職員への情報共有をはかることができたが、記載内容の表現方法について、検討したり考慮したりすることも必用である。            定期的に校内委員会を開き、支援の方向性や手立てについて検討することができた。            生徒の状況把握や今後の支援について検討することができた。校内ふれあい教室担当が常駐しているため、生徒それぞれのニーズに合った時間に登校することができている。            毎週の学年会や生徒指導委員会を通して気になる生徒の把握に努め、対策を考え共有することができた。さらに日ごろから気になる生徒の情報共有ができている。            SSWに生徒指導委員会に参加し、気になる生徒宅を家庭訪問するなど、力になっていただいている。            各校園の取り組みを共有することで指導につなげることができた。            乗り入れ授業を実施し、小学校の学習状況を把握することができた。            進路選択に向け、基礎学力の取り組みを継続的に行うことができた。         </p>	

## 2 改善方針

- ・ 各種調査をしているが、その分析が指導に活かしかれていないため、今後は結果をどのように指導に組み入れていくかを具体的に考えていく必要がある。
- ・ 学習内容の精選を行い、粘り強く取り組ませていく指導が必要である。
- ・ コミュニケーション能力が低下しているため、ワークショップ等をたくさん取り入れ、コミュニケーション能力の向上をはかる指導が必要がある。また、スクールライフノート等を活用し、生徒とのコミュニケーションを図る。
- ・ ICT機器を積極的に活用した授業を行い、成果をあげているが、今後も「生徒たちに身に付けさせたい力」を明確にし、学習の充実を図る。
- ・ キャリア教育の一環で実施している「職場体験学習」について、現代に合った新たな事業所を開拓し、生徒たちの視野が広がる取組ができるよう学習を推進する。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	和 豊かな心の育成～人権教育や豊かな人間性を育む教育	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;アンケート結果&gt;  「道徳・人権教育の充実」 3.7(生徒)、3.7(教職員)、3.1(保護者)  「生徒指導上の問題への対応」 3.4(生徒)、3.6(教職員)、3.1(保護者)  「特色ある教育課程の編制」 3.6(生徒)、3.6(教職員)、3.1(保護者)</p> <p>&lt;成果&gt;  ○校訓の一つである「和」の取り組みとして、本校の伝統である箏の演奏を、地域の専門家の教えの下で学び、充実した体験となった。  ○総合的な学習の時間を活用して様々な分野の外部講師を招聘し、地域学習やHUG、マナー講座など特色ある取り組みを進め、学習を深めることができた。  ○生徒に寄り添ったコミュニケーションを大切にするとともに、教育相談を充実させ、生徒との信頼関係の構築に努めた。また、組織的な対応を徹底するとともに、いじめに関する講演会を開催するなど、外部関係機関との連携も強化できた。  ○人権・同和教育や道徳教育では、各学年が年間カリキュラムに沿って計画的に取り組むことができた。さらに「考え、議論する道徳」についての研究を深め、外部への授業公開を行うなどの取り組みをすすめたことにより、生徒の自己肯定感や道徳に対する意識の向上が見られた。  ○キャリア教育・進路指導の一環として、職場体験学習を開催した。目的を持って学ぶ姿がみられ、生徒・保護者の評価も高かった。</p> <p>&lt;課題&gt;  ●いじめやSNSトラブルなどについて、日常から丁寧な対話を心がけるとともに、組織的な対応を充実させ、生徒に寄り添った指導をすすめる。  ●登下校時の交通マナーなどについて、生徒への安全指導とともに、保護者や地域と連携し、引き続き課題解決に向けて取り組んでいく。</p>	

重点目標2	学 確かな学力の育成～個の力を高め、自主的・主体的に学ぶ姿勢を育てる教育	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;アンケート結果&gt;  「わかる授業」 3.5(生徒)、3.6(教職員)、2.8(保護者)  「特色ある教育課程の編成」 3.6(生徒)、3.6(教職員)、3.1(保護者)</p> <p>&lt;成果&gt;  ○補充学習の時間を設定し、生徒が自ら選択した学びを進められるよう支援した。また、夏休みや定期テスト時の質問学習日を設け、基礎学力の定着に努めた。  ○ICTの活用については、授業をはじめ日常生活の様々な場面でタブレットの活用し、学びのデジタル化を推進することができた。昨年度と比較して、情報活用能力を一層向上させることができた。  ○校内研修では、昨年度に引き続き、道徳教育の効果的な指導方法の研究をすすめた。また、道徳の授業づくりを柱として、令和の時代に求められる授業改革に全教員で取り組むことができた。  ○評価検討委員会を開催し、適正な評価について適宜検証するとともに、指導と評価の一体化に取り組んだ。</p> <p>&lt;課題&gt;  ●授業でのICTの日常的な活用は大幅に進んだものの、今後は生徒の学びに有効な活用方法や具体的な方策についての研修を深めていく。  ●学びの一体化では、校区の子どもたちの実態や課題を見つめなおすとともに、令和の時代の保幼小中連携について、再構築していく。  ●地域理解学習や地域内清掃など、コロナ禍前に実施していた学習が再開できたため、今後はさらに地域の一員として学ぶ場を設けていく。</p>	

重点目標 3	鍛 健康な心身の育成～体力向上への指導の充実と健康的な生活習慣の形成～	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;アンケート結果&gt;  「充実した学校生活」 3.5(生徒)、3.5(教職員)、3.2(保護者)  「部活動の充実」 3.5(生徒)、3.6(教職員)、3.3(保護者)</p> <p>&lt;成果&gt;  ○体力面では、新体カテストの「立ち幅跳び」や「ハンドボール投げ」において全国平均を上回っており、一定の成果をあげることができた。また、診断結果に基づき、保健体育の授業や朝明中オリジナルの準備運動「リズム体操」を継続的に行うことにより、弱点とされる部分の補強を図った。  ○部活動ガイドラインに基づいて、短時間で効果的な部活動を工夫して行った。  ○不登校やその傾向にある生徒が、「校内ふれあい教室」を利用し、自分のペースに合わせて学ぶ姿が見られた。  ○今年度から給食が開始され、栄養教諭と連携した食育を推進し、食文化への関心や知識を身につけたり、望ましい食習慣を確立する取り組みをすすめることができた。</p> <p>&lt;課題&gt;  ●体力の低下と持久力の不足が課題である。より効果的な方策を検討し、全体的な体力向上に努めいく。  ●デジタル機器の活用が広がり、生活リズムに影響が出る生徒もいる。情報や機器の扱いについて、生徒自ら正しく主体的にそれらと付き合うことができるよう、保護者・外部機関と連携して啓発を進めていく。</p>	

## 2 改善方針

<p>校訓「和・学・鍛」を基に、「めざす学校の姿【魅力ある学校～笑顔と感動】」および「めざす生徒の姿【自分と仲間を大切にする生徒～調和と協調～】」をより具現化して教育活動に取り組む。</p> <p>&lt;重点1&gt; 自分の人権を守り、他者の人権を尊重するための実践的行動ができる力を育成する。人権カリキュラムの充実を図り、人権の視点を盛り込んだ日常の授業を充実するとともに、外部講師による講演会の開催や、地域連携や体験活動などを充実させていく。また、教職員自身も確かな人権感覚を身に付けるよう常に研鑽を深める。</p> <p>道徳教育では、2年間で培った道徳の授業研究をより深化させていく。さらに生徒の思考を促し可視化するツールとしてのICTの活用もすすめていく。</p> <p>通学路の安全対策については、今年度も地域から様々な意見をいただき、課題が浮き彫りになった。生徒の交通ルールに関する規範意識を高める取り組みをすすめるとともに、保護者・地域・関係機関と連携し、交通安全指導とマナーの向上に力を入れていきたい。</p> <p>&lt;重点2&gt; 来年度は「学びあい、認め合い、高め合う 教育活動の創造（第三次）」を研修主題とし、教科の公開授業や道徳の研究授業を行うとともに、ICTの効果的な活用に重点を置いて、研修に取り組む。日常の授業では、積極的に互いの考えを伝え合ったり議論したりする場を多く設定し、令和の時代に求められる学びの姿を目指していく。</p> <p>&lt;重点3&gt; 増加する不登校に対応するため、わかる授業づくりや魅力ある行事を実施し、未然防止に努めていく。さらに、スクールカウンセラーや登校サポート教員・教育相談担当、関係機関等と連携し、生徒個々への丁寧な対応と不安感の払拭に努め、生徒や保護者が見通しが持てるよう、計画的な支援を進めていく。</p> <p>部活動については、ガイドラインを遵守し「学校部活動における自主的、自発的な加入」に則った活動を進めつつ、部活動を通して精神・身体両面の総合的な人間形成を図っていきたい。</p>
---

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 保々中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	人を大切にし、気持ちよくあいさつする生徒を育てます	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;取組指標&gt;            ①生徒全員が、教員から少なくとも1日に一度はあいさつを含めて共感的声かけを受けられるようにします。            ②あいさつの指導を継続的に行います。            ③日常生活や行事等での「ありがとうメッセージ」等に取り組みます。            &lt;結果指標&gt;『自分からあいさつしている』という生徒の割合90%以上をめざします。⇒結果、85.1% (昨年度91.6%)</p> <p>あらゆる教育活動を通して、自分も人も大切にする気持ちを持ち、「豊かな感性」(だいすき・つながる)を育てるべく、人権教育を根幹に据えて仲間づくりを進め、「あいさつ」を象徴的に提示し取組を進めてきた。            具体的には取組指標に加え、日常的な教職員からのあいさつや声かけ、生徒会活動でのあいさつ運動、授業や部活動でのあいさつ、道德等の授業であいさつの意義や人を大切にする事、人とつながることなどを指導している。</p> <p>&lt;成果と課題&gt;            ・様々な取組(生徒会活動の「あいさつ運動」、講師を招いての「マナー講座」等)によってあいさつがほとんどの生徒に習慣化し、定着してきている。しかし、自発的に自らあいさつできる生徒が少ない。            ・地域の方や来客から「よくあいさつをしてくれる」といった声を聴かせていただいております。生徒に返すことで自発的なあいさつへとつなげていきたい。</p>	

重点目標 2	ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てます。	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;取組指標&gt;            ①清掃方法を工夫・改善し、はじめと終わりの点呼・あいさつ・指示・評価を行います。            ②掃除や整理・整頓の指導を継続的に行い、「がんばってるねメッセージ」等に取り組みます。            ③さまざまな場面で、当たり前なことを当たり前できるように継続的に指導します。            &lt;結果指標&gt;『ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている』という生徒の割合85%以上をめざします。            ⇒結果、88.4% (昨年度83.9%)</p> <p>あらゆる教育活動を通して、自らの課題克服に向けて粘り強く取り組もうとする気持ちを持ち、当たり前なことが当たり前でできる力、「やり切る態度」(じっくり・やってみる)を育てるべく、「掃除」を象徴的に提示し取組を進めてきた。            具体的には取組指標に加え、清掃点検カードを使っての毎日の清掃時の指導と評価、掃除用具の工夫や分担、日常的な整理・整頓に向けた各学級での取組や個別の関わり、継続的に粘り強く活動するためのていねいな言葉かけやサポート、個々の努力が周りの生徒に認められる場面の設定などに取り組んでいる。</p> <p>&lt;成果と課題&gt;            ・掃除の時間では、小学校からの取組の成果もあり、一生けん命に取り組む生徒が多いが、教師からの指示でなく、自分で考えて動ける生徒が少ない。掃除を通して、将来の「やり切る態度」が育っていくことを継続的に意識させていく必要がある。            ・与えられたスペース(ロッカー等)での整理・整頓が苦手な生徒が多い。収納のスペースが狭いこともあるが、工夫して収納すればもっときれいにできることを指導していく必要がある。</p>	

重点目標 3	時間や期限を守り、授業を大切にしている生徒を育てます。	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>&lt;取組指標&gt;</p> <p>①授業の始まりと終わりを大切に、宿題や自主勉強ノートの指導（点検・評価）を継続的にしています。</p> <p>②時間や期限を守る指導を継続的にしています。</p> <p>③自分の生活を振り返り、自分自身を向上させる指導を行います。</p> <p>&lt;結果指標&gt;『時間や期限を守り、授業を大切にしている』という生徒の割合 90%以上をめざします。</p> <p>⇒結果、91.8%（昨年度91.0%）</p> <p>あらゆる教育活動を通して、時間や提出物等の期限を守り、学ぶ意欲をもって主体的に授業に参加しようとする、「生きぬく基礎」（すこやか・まなぶ）を育てるべく、「時間」を象徴的に提示し取組を進めてきた。</p> <p>具体的には取組指標に加え、委員会活動でのベル席チェックやリーダー会からの声かけ、教師自身が授業時間を守る行動、わかる授業をめざした授業改善、指導と評価の一体化等の取り組みを進めている。</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会、委員会活動や学級での取組、また教師が授業時間の確保を大切にしてきたことで、多くの生徒が時間を守り、落ち着いて学びに向き合う姿勢が定着してきている。</li> <li>・多くの生徒は提出物を期限通りに出すことを意識できているが、期限を守ることの意識の薄さや、教師の声掛け、支援がないとなかなか提出できない生徒もおり、家庭との連携や丁寧な支援が継続的に必要である。</li> <li>・班活動やペア活動では意欲的に学習に向き合うことができるが、生徒が主体的に授業に向き合うために授業づくり、授業改善など教師の研鑽が必要である。</li> </ul>	



重点目標 4	生徒の保々地区への愛着の気持ちを育てます	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>&lt;取組指標&gt;</p> <p>①各学年、教科、委員会、有志等がボランティア活動や文化活動、校外活動等の地域に出向いて行う活動を継続します。</p> <p>②各種団体行事、地域奉仕活動、各種防災・避難訓練等への参加やあいさつ運動、交通安全活動を通して、「中学生も地域から頼りにされている」と実感させます。</p> <p>&lt;結果指標&gt;『保々地区が好き』という生徒の割合90%以上をめざします。</p> <p>⇒結果、88.4%（昨年度94.2%）</p> <p>教育活動の中で、自主的に地域の活動に参加したり、地域の人たちと関わりを持つことを通して、「地域への愛着」を育てるべく、取組を進めてきた。</p> <p>&lt;成果と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールを中心に、今年度は特別支援学級の農園活動に加え、1年生も農園活動を始め、地域の方から授業支援をしていただいた。また、除草作業や除草剤散布などの環境整備への協力などをしていただくことで普段の学校生活の中でも地域の方と触れ合う機会を持つことができた。</li> <li>・地域の活動であるプラザ学習に意欲的に参加する生徒が年々増えてきている。学年閉鎖等で今年の人権プラザ小牧文化祭では人権劇を上演することができなかったが、生徒の熱意と地域の方々の厚意と協力により日程を変更して上演でき、多くの地域の方の前で堂々と演じた。地域の青年会とも定期的に交流している。人権まちづくり推進委員会主催の人権まちづくり講座では中学校の取組を生徒が主体的に発表できた。各地区の防災訓練への参加を呼びかけたが、少数の参加にとどまった。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>○今後も生徒や職員に定着してきている重点目標の「あいさつ」「掃除」「時間」「地域への愛着」を継続して取り組んでいく。</p> <p>○重点目標1にかかわって あいさつの取組を通して、他者理解を深めることが人を大切にできる心を育て、周りからも自分が大切にされることを実感できる人権感覚豊かな生徒を育てていく。将来の「豊かな感性」につながることを生徒も職員も意識して今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>○重点目標2にかかわって 清掃活動や整理整頓の取組を通して、日常、継続的に行っている活動が将来の「やり切る態度」につながることを意識してより丁寧に、当たり前にするべきことを当たり前に行える力をつけていく指導を継続していく。</p> <p>○重点目標3にかかわって 時間や提出物の期限を守る取組を通して、社会に出て与えられた責任を果たせるための「生きぬく基礎」を育てていく指導を継続して行っていく。また、自ら学ぼうとする意欲を育てることでこれからの未来を切り拓く力を育てていく。</p> <p>○重点目標4にかかわって 地域への愛着という点では、生活の基盤である場所が当たり前すぎてその素晴らしさに目をむけられていない。教科をこえた横断的な視点で様々な教材に地域の特色や魅力を感じられる取組を行っていく。また、これからの地域の担い手であることを実感するために地域の活動に積極的に参加できるよう働きかけていく。</p>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 常磐中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着と指導の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>学校アンケートの質問「基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」において約97%の生徒が肯定的な回答をしている。全国・学力学習状況調査においては、国語・数学・英語とも全国の平均正答率とほぼ同程度である。また、同生徒質問紙では「数学の授業の内容はよくわかる」「英語の勉強は好き」の肯定的な回答は全国平均を20ポイント程度上回るなど、学習に関する多くの項目で全国平均を数ポイント～十数ポイント上回っている。</p> <p>授業では、学習の「めあて」を明確にし、生徒が学習後に身に付いたことを振り返るなど、生徒が達成感を感じられる工夫している。また、生徒が1人1台端末を効果的に活用することや、小集団をより有効な場面で行うことなど、授業展開を工夫してわかりやすい授業を目指している。そして、教科、時間数が限られているものの、少人数授業やTT(チーム・ティーチング)、支援を配置した授業により質問しやすい環境をつくっている。これらにより、生徒が「わかった」と実感でき、学習意欲や学力の向上につながっていると考えられる。</p> <p>帰りの会前10分間の補充学習や自主学習ノート「Toki Note」による毎日の家庭学習定着の取組も一定の成果があるが、あまり効果を感じていなかったり家庭学習の定着につながっていなかったりする生徒も一部いるため、取組の内容や方法を検討する必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>学校アンケートの「豊かな人間性の育成」に関する各項目において、生徒・保護者とも約9割が肯定的な回答をしている。全国・学力学習状況調査の「いじめはどんな理由があってもいけない」には、全国平均をやや上回る約97%の生徒が肯定的な回答をしている。</p> <p>道徳の授業や人権学習でも、ICTを活用して生徒の意見を多く交流し、他者から学び考えが深まるようにしている。講師を招聘した人権講演会、1年生が校区の小学6年生とともに学習する人権フォーラム、福祉体験学習ではSSピンポンの体験などの学習を行っている。</p> <p>総合的な学習の時間には、3年間を通して進路・キャリア学習に取り組み、1年生では様々な職業の方から話を聴く職業ガイダンス「ザ・プロフェッショナル」、2年生では「職場体験学習」を中心に、3年生での進路選択につながるよう系統的に取り組んでいる。朝の読書では、チャイムとともに静かな雰囲気の中で読書(3年生は朝学習)をしており、豊かな心の育成とともに、1日の学校生活にもよい影響を与えていると考える。</p>	
重点目標 3	生徒指導・生徒理解の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>学校アンケートの「生徒指導・生徒理解の充実」に関する全3項目において、生徒・保護者とも約9割が肯定的な回答をしている。</p> <p>週1回、生活委員会の教員と生徒を中心に社協とも連携して「あいさつ運動」を行っているが、自分からあいさつできない生徒や声の小さい生徒もいることが課題である。休み時間には「ふれあいタイム」と称して教員が生徒の様子を見て積極的に関わり、生徒の理解を深め、よりよい関係づくりの機会としている。授業開始3分前には授業の準備をして着席できるよう、生活委員や室長を中心に生徒同士が声をかけあっている。</p> <p>各学期に行う「いじめ調査」だけでなく、連絡ノートや教育相談、生徒の様子の変化などから、積極的にいじめ等の問題を認知し、教職員間で情報共有、連携して早期の解決に取り組んでいる。また、近年、集団生活に不安を抱える生徒や個別に対応が必要な生徒も増えており、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)などとも連携して対応を進めている。</p>	

重点目標 4	教職員の指導力の向上と組織の活性化	4
主な方策 成果と課題	<p>今年度から研修主題を「自ら学び、ともに学び合う生徒の育成 ～対話的な学びの充実を通して～」とし、コロナ禍により制限されていた小集団活動を取り入れた学びの充実を目指して取り組んだことにより、読む・話す・書くといった言語活動の充実を図ることができた。校内全体公開授業として英語・家庭・特別支援、1年生全学級の人権学習を行い、他の教員は個人公開授業として、「問題解決能力向上のための5つのプロセス」(四日市モデル)をベースに小集団を活用した授業を全員が行い、互いに参観して研修を深めた。</p> <p>研修委員会、生徒指導委員会、人権教育委員会、不登校対策委員会、特別支援委員会、学年主任による代表者会には管理職が入り、それぞれ時間割上に位置付けて週に1回会議を行い、現状や進捗状況を確認し、学校全体で共通理解を図りながら取組を進めることができるようにしている。</p>	

重点目標 5	保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>学校アンケートの「保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり」に関する各項目のうち「授業参観・学校公開や行事などに保護者や地域の方の参加が多い」のみ生徒の肯定的な回答が約7割6分であるが、それ以外は生徒・保護者とも約9割が肯定的な回答をしている。</p> <p>1年生「サ・プロフェッショナル」の講師選定はPTAが行い、常磐地区人同協による「人権啓発標語」の取組、常磐地区社協が主催する竹馬整備・凧づくり・吉田山探検に生徒がボランティア参加するなど、保護者や地域、関係機関との連携・協働による取組を行っている。</p> <p>学校公開を3回行った。今年度は体育祭、文化祭とも保護者に直接参観していただくことができた。</p> <p>定期的な「学校だより」や「学年通信」などの発行、学校ホームページの更新を行っているが、より情報共有・共通理解を図れるようにしていきたい。また、学校アンケート等を通していただいた保護者からの意見をよりよい学校づくりに生かしていきたい。</p>	

## 2 改善方針

授業では、さらに多くの生徒が生徒が学力の定着を実感でき、主体的に学習に取り組めるような授業づくりを目指し、小集団活動のより効果的な活用場面や方法を研修して授業改善を進める。基礎学力の向上のための10分間の補充学習や家庭学習など、より生徒の状況にあった方法に改善したい。

豊かな人間性の育成に向けて、道徳の授業や人権学習、進路・キャリア学習などを生徒がより主体的に取り組めるようにするとともに、それらの学習で学んだ内容を授業や学校生活で活かす意識を高めていきたい。あいさつについても道徳や他の学習との関連により意識を醸成し、生徒が主体的によりよい学校にしていけるような取組を進めたい。また、教員による「ふれあいタイム」を継続し、より多くの教員が生徒と関わり理解を深めるとともに、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)などとも連携してより生徒一人一人に応じた対応をしていきたい。

地域の子どもを地域全体で育てていけるよう、学校の考えや取組、生徒の様子などをわかりやすく発信することと、実際に学校や生徒の様子を参観していただける機会を設けて、より情報共有・共通理解を図っていきたい。

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 西笹川中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	キャリア教育の充実と進路保障	3
主な方策 成果と課題	<p>各学年の活動を通してキャリア教育の充実を図った。学期に一名以上の外部講師を招聘したり、国内外問わず多文化の視点で講演会をしていただくなど、自らの生き方を見つめる機会を多く設けた。</p> <p>コロナ禍の規制がなくなり、2年生はのびのびと職場体験学習を実施できた。「時間の意識」や「挨拶」等実生活に必要な学習をすることができた。また、3学期の名古屋への社会見学では、「防災」「国際」「福祉」に関する施設を訪問し、聴き取り学習を行うことで、主体的な生徒の育成のスモールステップとなっている。</p> <p>3年生の修学旅行では、県外へ行くことで集団活動の大切さや班別分散学習での協力について学ぶことができた。しかしながら、「キャリア教育」評価について保護者は68.4%から78.2%も肯定的評価が上がったものの、生徒については「将来の夢や目標があり、その実現に向けて自分なりの努力をしている。」という質問内容で、他の質問項目より肯定的評価が低い傾向が続いている。生徒の思いに寄り添い支える教育活動を目指していきたい。</p>	
重点目標 2	毎日登校し、授業を真剣に受けようとする態度の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>本年度も学校運営協議会委員の方をはじめ、四日市市教育委員会の指導主事や外部講師等多くの方に授業の様子を参観していただいた。本校の研修の柱であるJSLカリキュラムを意識した指導が、子どもたちの学習に向かう姿勢に効果をあらわしていると、すべての方から好評価をいただいた。また、すべての教員がほぼ毎時間にICT機器を活用し、GIGAスクールを意識した授業を行うことで、外国にルーツのある生徒の理解の一助にもなった。1時間1時間の授業を大切にし、真剣に学習に取り組んでいる姿を外部の方から評価していただいたことは、学校として大変ありがたいことと考える。</p> <p>一方で本校の課題でもある不登校生徒については、昨年度より減少傾向にある。担任だけでなく、学年がチームとなって「家庭訪問」や「電話連絡」を欠かさず行っていることが功を奏している。また、3限目に登校する生徒への門戸を開け、別室で学習をする対応を行ったことで進路保障を行うことができた。次年度は、教育相談週間やSC、SSWと連携をした取り組みや、校内ふれあい教室の活用で一人でも不登校生徒の削減につながるよう努力していきたい。</p>	
重点目標 3	自ら進んで挨拶をし、環境美化に努め、時間を大切に作る生徒の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>校内外ともに生徒は良く挨拶をし、地域の方からもお褒めの言葉をいただくことが多かった。今年度は始業式から、「あいさつ」の徹底を呼び掛け続けたことで、学校集会でも大きな声であいさつをする生徒が増えた。さらに、たくさんの講演会で外部の方を招聘しているので、感謝の拍手の仕方は本当に温かい響きのものとなった。</p> <p>特に、四日市市姉妹都市の米国ロングビーチ市長訪問では、心から感謝をする姿をみせた。実体験の大切さを実感した。</p> <p>環境美化については、校内での清掃時間には一生懸命に清掃に取り組むことができる生徒が多く、生徒アンケートにおいても、87.5%の生徒が「ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている」と答えている。時間に対する意識は、昨年は82.3%であったが、今年は84.1%の生徒が「きちんと時間や期限を守っている」と答えている。授業前の2分前着席等、リーダーによる呼びかけの効果が出てきている。</p> <p>しかし、朝の遅刻が多いなど生活習慣が乱れている生徒も一定数存在する。学校全体として時間を守ることの大切さを教えていきたい。</p>	



重点目標 4	よりよく生きるための学力保障	3
主な方策 成果と課題	<p>昨年度より、学習環境のICT化が一気に進み、タブレットを活用しての学習が日常化した。多くの授業でタブレットを使用して情報収集やドリル学習をするなど学習の進め方自体に大きな変化をもたらしている。また、毎日タブレットを家へ持ち帰る習慣を身につけさせ、宿題や自主的な学習を進めるツールとなってきた。このような中、生徒は授業中もICT機器を自由に使いこなし、学習の個別最適化について徐々に進んでいる。このことは学校評価アンケートの、「確かな学力」の評価項目で生徒91.4%、保護者88.4%)や「個に応じた指導」の評価項目で生徒95.4%、保護者87.1%という高い評価結果に表れている。</p> <p>一方で、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意だと思ふ」の評価項目では、生徒の肯定的回答が52.0%と低い値となっている。今後は、ペアやグループ等の小グループで発表する機会を増やし、自信をもって自分の考えや意見を表現する力をつけていきたい。</p> <p>また、ICT機器のより効果的な活用について教師同士の使用するアプリについて情報交換やミニ研修を進めることで、教師力のアップも目指していく。</p>	

## 2 改善方針

次年度に向けて次の4点を改善していきたい。

- 1 多文化共生教育のさらなる充実
  - ・ 多様な講演会やパネルディスカッションなどを通して、自身の中に多文化共生の考え方を根付かせるとともに、将来の多文化共生社会の実現に向けて自ら行動する力を養う。
- 2 登校サポート体制の充実
  - ・ 登校しづらい生徒に対する支援体制を充実し、外部の専門機関とも連携をとりながら、保護者との連携を密にして少しでも登校できるよう取り組みを進める。
- 3 キャリア教育の充実
  - ・ 実体験を基盤にしたキャリア学習に取り組み、自分の将来の夢や志について具体的にイメージをもち、発表できるよう学習を進める。
- 4 学力向上の取組
  - ・ ICT機器の有効活用を進め、学習の個別最適化を図る。



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重平中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

	自立のためのキャリア教育の推進	3
重点目標 1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的・対話的で深い学びによる授業づくりをすすめ、知識・技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力をバランスよく育成することや言語能力・ICTを効果的に活用した問題解決能力・情報活用能力など、汎用的な資質・能力を育成します</li> <li>2. 「人を大切にする視点」で夢や志を持てる取り組みをすすめます</li> <li>3. 「人を大切にする視点」で「当たり前のことを当たり前にする」ことを基盤とし、生徒自身が「自分たちで創あげる」学校を目指します</li> <li>4. 安全・安心な学校生活を送り、意欲的な学びを継続することのできる教育環境づくりを目指します</li> <li>5. 働きやすい職場環境づくりをすすめ、教師力の向上をはかり、指導に活かします</li> </ol>	
主な方策 成果と課題	<p>○「挨拶・掃除・時間を守るなどの当たり前のことを当たり前に行っていますか」という問いに対し、生徒の肯定的回答は昨年度より3%増の96%となっている。現に「ノーチャイムデー」の試みにも、なんの問題もなく対応できており、また、挨拶もより丁寧に行えている生徒が増えている。</p> <p>○「ステップアップノートを活用しての家庭学習の授実」については、生徒の肯定的回答が昨年度より8%程低くなっており、家庭学習の方法について、タブレット教材等を利用した学習等への転換・見直しを図る必要があると考える。</p> <p>○「ザ プロフェッショナル～仕事の流儀～」と題して「キャリア教育講演会」を行い、体育祭などの各行事においても生徒の主体的な活動による企画・運営により取り組まれており、「将来の夢や志を持っている・もつことができた」という生徒も昨年度より10%増の76%となっている。今後もCS運営協議会やPTAなど、地域の人材との連携も視野に入れながらキャリア教育の授実を図り、主体的に活動・学習する生徒の育成の充実に努めたい。</p>	

	豊かな人間性の育成	3
重点目標 2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「人を大切にする視点」で 自尊感情を高め、コミュニケーション力の向上をはかります</li> <li>2. 「人を大切にする視点」で誰一人取り残すことのない学びの保障に向けて、子ども一人ひとりが、それぞれのニーズに応じた学習の機会を得られるよう、きめ細やかな指導をすすめます</li> <li>3. 集団的・協働的な学びの中で、人権意識の向上と行動力の育成、考え議論する道徳教育を通して、よりよく生きるための豊かな人間性を育みます</li> <li>4. 心身の健康や安全に関する意識を高めるとともに、基本的な生活習慣と規範意識の習得をはかります</li> </ol>	
主な方策 成果と課題	<p>○「生徒会・委員会活動や行事などの取組」については81%の生徒が「自分たちで創り上げようとしている」と回答しており、今後も引き続き、生徒会・委員会・サークル活動などの生徒主体の学校行事の充実を図っていきたい。</p> <p>○「平っこタイム」でのSSTにより身に付けさせたい4つの力（①自他を見つめる力・②人とつながる力・③動く・活かす力④めざす力）について、日常的に意識しながら学校生活を送っているという生徒が、昨年度は69%であったが、今年度は75%に増えた。校内で丁寧な気持ちの良い挨拶ができる生徒が増えてきており、地域の方からも「横断歩道などで丁寧に礼をしてくれる」という話も何度か聞かれる。</p> <p>また、「話し合いでは進んで意見を言う」「自分のことが好き」「自分のことを大切にしている」「自分には良いところがある」という生徒も、いずれも6～15%増えている。今後も生徒に上記の4つの観点を個人目標として設定させ、教育相談などに活用するなどの方法もとりながら「笑顔とあいさつあふれる学校」をめざして様々な取り組みを充実させていきたい。</p>	

重点目標 3	地域と共にある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>1. 学校運営協議会を中心とし、家庭・地域の学校教育への参画をすすめます</p> <p>2. 地域と連携した事業に積極的に参加します</p> <p>3. 積極的に情報発信し、開かれた学校づくりをすすめます</p> <p>4. 保幼小の教職員と連携・協働して生徒を育成します</p> <p>5. 家庭・地域・関係機関・専門家と連携し「チーム学校」としての組織力を高めます</p> <p>○環境整備活動や高齢者とのふれあい事業、防災教室等をはじめ、地域の様々な行事に、CS運営協議会と連携しながら取り組むことができた。校内に「ボランティアサークル」を立ち上げたこともあり、地域の行事への生徒の参加体制が整いつつある状況である。今後もCS運営協議会と連携し、さらに多くの地域の活動に生徒が参加・参画できるように、校内の体制づくりや生徒の意識改革・CS運営協議会との連携の仕方等の充実を図りたい。</p> <p>○来年度より「放課後デザイン」と題し、「サークル活動」などの放課後の生徒の自主的・主体的な活動を、CS運営協議会やPTA、地域総合型スポーツクラブなどと連携しながら取り組んでいく予定である。</p>	

## 2 改善方針

○不登校傾向にある生徒をはじめ、コミュニケーション能力の低い生徒が、まだまだ多い状況が続いている。今後も引き続き「平っ子タイム」(SST)などの教育活動に力を入れるとともに、「放課後デザイン」等、生徒の自主的・主体的活動の充実を図りながら、仲間づくりを充実させ、生徒の自尊心と自信を育てていきたい。

○教員が足りない状況に対しても、CS運営協議会等の地域の協力を最大限に活用し、生徒の自主的・主体的な活動の充実や教員の負担軽減を図るなど、「チーム学校」としての教育活動の充実に努めていきたい。

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 羽津中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着とICT教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○主体的・対話的で深い学びの実現            本校では、独自の生活ノート「DAILY STUDY」を活用した家庭学習に継続して取り組んでいる。生徒が自分で課題を考え、自分の力を伸ばしていけるような取り組みを行っている。しかし、有効活用できている生徒とそうではない生徒の差がみられ、一人一人の生徒が効果的な家庭学習に取り組めるよう教師の声掛けや保護者への発信、指導方法等の研修を深めていく必要がある。</p> <p>○ICTの活用した授業改善            様々な場面でICT機器（タブレットなど）やクラウド（Googleクラスルームなど）、オンライン教材（iプリ、ドリルパークなど）を、授業に積極的に取り入れる授業づくりを行った。そのため、生徒が自らタブレットを活用し、学習に取り組む姿勢も出てきた。また、ICT活用に対して苦手意識のある職員もいるが、OJTやICT支援員による研修などで、全職員が取り組みやすい環境づくりを心掛けた。今後も、より効果的な活用方法を模索していく。</p>	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○羽津中らしい教育の推進            制限がなくなり、コロナ禍前のように山のコンサートや文化祭、体育祭の生徒会ダンスなど、羽津中らしい活動を実施することが出来たため、評価は上がったと考えられる。来年も、山のコンサートや生徒会ダンス、本物の文化・芸術体験等、羽津らしい活動に引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>○読書活動の充実            今年度は読書活動推進校として、生徒に関わる読書活動の活性化に取り組むことができたため、数値の増加につながっていると考えられる。貸出冊数にしても、昨年度2016冊に対し、今年度は、目標としていた5000冊を超える貸出冊数となっている。そのことから、図書室の活用や読書活動がより身近に感じることができた取り組みができたと考えられる。一方で、保護者の数値は変化していないため、家庭での読書活動を推進するための手立てを考えていかなければならない。</p>	
重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の推進            4つの力を意識した授業や講演会をはじめとしたキャリア学習、職場体験などの校外活動を行うことができたことで、生徒・保護者の評価が高くなったと考えられる。特に、保護者については大きく上昇しており、公開授業や体育祭、文化祭などの学校行事の参観が可能となり、キャリア学習を実感する機会が多くなったことが理由として考えられる。今後も、生徒自身が4つの力を意識して取り組めるような教育活動を計画していく。</p> <p>○防災・安全教育の推進            地区別集会や安全点検にタブレット端末を活用して効率化に取り組んだ。教職員の下校指導の仕組みを変えたり、下校指導の呼びかけを強化したりした。安全委員会の活動も下校指導に重点をおいて取り組んだ。特に下校時の呼びかけが生徒や保護者に届いた結果だと考える。</p>	

重点目標 4	子どもの能力を伸ばす教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>○指導・支援体制の充実 不登校生徒は減少したが、長期欠席者は若干増加している。そのような中、不登校対策事業SVをはじめ、SCやSSWなど多くの専門家から生徒支援に関する具体的なアドバイスを受けることができ多くの学びを得ることができた。今後は支援の方法などの共有にとどまらず、その支援を具体的に「誰がどのように行うか」をはっきりさせて支援していくことが効果的な支援につながると考える。</p> <p>○特別支援教育の充実 特別支援委員会で確認された個々の生徒への支援の手立てや全校生徒を対象とした共通の支援策などを、その後の学年会や職員会議などでの発信によって情報を共有し、具体的な支援に生かすことができた。今後も情報の共有にとどまらず、支援内容の検討および実施に重点をおいた委員会として機能させていきたい。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○積極的生徒指導の実践 生徒の情報を全教師がいつでも状況把握できる状態にして情報共有できた。職員室ではホワイトボードを利用し、その日の他学年の様子も把握できるようにしたことで迅速な対応につながった。いじめ対応については、その後の対応や指導を丁寧にしていくことで信頼関係や安心できる学級集団作りにつなげたい。</p> <p>○教育相談の充実 学活や総合の時間を利用し、相談時間を確保するなど、各学年で計画的におこなっていく。また、普段から生徒との関係づくりをおこない、「先生に話しやすい。ちゃんと知ってもらっている」という基盤をつくっていくことも必要である。</p>	

## 2 改善方針

<p>【重点1】 確かな学力の定着とICT教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独自の生活ノート「DAILY STUDY」のさらなる有効活用を進める。</li> <li>・より有効にICTを活用し、授業改善を進めていくために、全職員でさらに研修を進めていく。</li> </ul> <p>【重点2】 ところとからだの健全な育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・羽津中らしい活動（山のコンサート、生徒会ダンス等）においても生徒の実態に応じて取り組みを継続し、生徒の主体的な参加が根付いていくように取り組む。</li> <li>・保護者にも活動の様子や意義が伝わるよう、通信やホームページを通じて発信をしていく。</li> </ul> <p>【重点3】 よりよい未来社会を創造する力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育（社会的・職業的自立のための4つの力）の視点で、生徒が自らの成長を感じ取ることができるよう取り組みを推進する。</li> <li>・生徒が主体的に学校行事にかかわる場面をさらに増やすとともに、保護者においては、授業参観やクリーンデイの実施など、生徒が活動する姿を実際に目にする場面を増やしたり、HPや通信等で情報発信することで保護者が教育活動への理解を深める。</li> </ul> <p>【重点4】 子どもの能力を伸ばす教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援委員会からの情報提供、支援課や対策事業などの外部講師からの学び、各SV、SC、SSWなどからのアドバイスに加え、医療との連携や地域の力を活用した支援を行うなどして、具体的な生徒の支援につなげるための話し合いや支援の実施につなげていく。</li> </ul> <p>【重点5】 学校教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導やいじめ対応、不登校対応等において、教職員間での情報共有、指導の一貫性など、組織的な指導を心掛けるとともに、関係機関との連携を密にし、課題解決に取り組む。</li> </ul>
--



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 西朝明中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生きて働く学力の養成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善</li><li>○多様な生徒一人ひとりに応じた学習の充実</li><li>○探究的な学習活動の充実</li></ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ICT活用事業や論理的思考力活用事業の研究指定校を受けて、グループごとの研修会や公開授業の実施など、互いに刺激し合いながら学ぶ機会を多く設定した。特に先進校の取組を参考にした授業改善について研鑽し、タブレットの様々な機能を活用して、生徒同士の対話を大切にするなど協働的な学びの場を設定し、ミニ探究的な授業づくりを実践する取り組みを少しずつ広げていくことができた。</li><li>・昨年度に引き続き数学科の習熟度別授業や、英語科の複数教員による授業の実施などを継続したことで、多様な生徒一人ひとりに応じた学習の充実をはかった。生徒のアンケートにおいても「学校の授業はわかりやすい」と肯定的回答が94.3%という結果を得ることができている。</li></ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ICT機器の活用が進み、タブレットが文房具の一つになりつつあるが、学習に応じてねらいをはっきりさせた活用の仕方について研鑽が必要である。</li><li>・さまざまな機能を使うことで、一人ひとりの意見を全体に周知することができ、生徒自身も他の意見を参考に考えることができているが、そこからさらに考えを深めていく力をつける必要がある。</li></ul>	

重点目標2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学び続ける意欲を育み、可能性を拓くキャリア・カウンセリングの充実</li><li>○自尊感情を高め、社会性・人間性を育む道徳・人権教育の充実</li><li>○生徒が主体的に活動する特別活動の充実</li><li>○合理的配慮が必要な生徒への組織的な取り組み</li><li>○「生きる力」「共に生きる力」の基盤となる健やかな心身の育成</li></ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学年ごとにねらいを定めてSDGsの学習に取り組むことができ、豊かな人間性を育成する一助となった。</li><li>・生徒会や学年のリーダー会を主体とした体育祭や学年行事・集会を運営できており、学校行事を通して生徒が自ら考え主体的に活動する姿を多く見ることができた。</li><li>・総合学習や道徳を通して、いろいろな考え方を持てるようになり、集団で協力し合い、思いやりを持ち、自他ともに認めあい、尊重しながら互いに高め合うことができた。</li><li>・合理的配慮が必要な生徒に対して、各委員会を通して共通理解したうえで、個に応じた丁寧な対応に心がけている。</li></ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・道徳や総合についてもICTを活用し、シンキングツールを活用しながら思考を高める工夫を行っている。しかし、まだまだ試行錯誤しながら活用しているため、今後も継続して研鑽を積む必要がある。</li><li>・道徳や人権学習等の中で考えた意見を実際の生活に生かせるような力の育成が必要である。</li></ul>	



<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】  ○学校運営協議会を中心とした保護者・地域の学校教育活動への参画  ○地域行事への積極的な参加・参画  ○2小4園との連続性・系統性のある教育の推進</p> <p>【成果】  ・「校区めぐり」や「防災@にしあさけ」の行事など、地域の方々と接する活動を通して、子どもたちの普段の姿を見せることができた。また地域・保護者の学校教育活動への参画や地域との連携の良い機会となっている。  ・地域のボランティア活動などへの積極的な参加を呼び掛けてたことで、自主的に参加し活躍する生徒が多くいた。  ・学びの一体化の取り組みなど、保幼小中で連携を取りながら校区で教育活動をすすめられている。乗り入れ授業で小学校へ出向き、授業を通し子どもたちと触れ合う中で、次年度、またその次の年度に入学してくるであろう子どもたちの様子が分かり、時には中学校の様子も伝えたりするなど、連携をとることができた。</p> <p>【課題】  ・地域の行事については任意での参加としたが、コロナ渦で行事の中止や参加していなかった期間が長かったこともあり、地域行事への積極的な参加の在り方について、参加できるとよい地域行事と参加できると良い対象を今後とも考えていく必要がある。  ・学びの一体化がこれまでの内容を踏襲して進めているが、よい取組内容は継続しつつ、新しく進めていけることについても考えていきたい。</p>
-----------------------	--

## 2 改善方針

○ICT機器を使用することを目的にするのではなく、どう活用するとよいかを見極め、授業を仕組んでいく。また、授業改善を、学校全体の取り組みとしていけるような校内研修会を設定し、教師同士が学び合いを継続し授業更新をしていくようにする。

○探究的な学習の充実のためには、グループ活動の中で課題について相談や質問し合いながら進めていけるような授業を計画することで、課題について深く考えられるようにする。

○教師が、相談したり、補い合ったり、協力したりする姿を見せることが、生徒たちに生きたモデルになる。これからも笑顔で明るく前向きな言葉を話し行動している姿を生徒たちに見せていき、生徒が安心して様々なことに挑戦する基盤にしていく

○地域連携について、コミュニティスクール運営協議会での意見も参考にしながら、将来の地域を担う生徒たちの育成について考えていく。

## 自己評価書

四日市市立 桜中 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員で全国学力・学習状況調査の問題を解き、今求められている学力の確認と確かな学力の育成について議論をし授業に活かしてきた。</li> <li>・また、ICT機器をとにかく使うというこれまでのフェーズから、今年度はICT機器を有効活用して、個別最適な学びと協働的な学習をいかに生み出すかという視点で授業改善に努めてきた。生徒アンケート「一人一台タブレットPCなどICTを活用した個別学習はわかりやすい。」に対する肯定的回答は87%の結果を得たが、それをどう協働的な学習につなげていくかは今後の課題である。</li> <li>・学校アンケート「宿題や自主学習により、毎日家庭学習を行っている。」では、生徒・保護者ともに肯定的回答は6割程度であった。家庭学習の習慣化に向け、授業の中で学び方を指導し、家庭でも生徒が自立して取り組める内容およびICT機器等を活用した授業の内容とつながる家庭学習で途切れのない学びに継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・ICTを活用し授業のユニバーサルデザインで「視覚化」「焦点化」「共有化」への教員の意識は進んだものの、生徒への指導や学習支援は十分とは言えない。引き続き取り組んでいきたい。</li> </ul>	
重点目標2	豊かな心と健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教育活動はキャリア教育につながるという考えの下、本校キャリア教育テーマ「未来くる学VIVA!」～自分の今と未来をつなげる学び～を決め、社会的・職業的自立に必要な4つの力を校訓と関連付けて生徒とともに共有しながら進めてきた。その結果、全体的にこれらを意識した取り組みができつつある。特に2月の学習発表会では、3年生の「夢地図」の発表を通して、1・2年生が将来の見通しを持ち、今するべきことなどを知ることができたことは大きい。</li> <li>・来年度の北勢同研の発表を見据え、今年度はどの学年も人権学習に力を入れ、例年よりも量・質ともに向上した指導内容となった。学校アンケート「先生たちは、いじめや差別を許さず、思いやりや人権を大切に仲間づくりに取り組んでくれる。」は生徒の肯定的回答が94%となり、取り組みの成果が出ていると感じる。しかしその反面、否定的な回答の生徒もいることを踏まえ、学校が、学級が生徒たちにとって安心して過ごせる場となるよう引き続き人権を大切にした教育の充実に努めたい。</li> <li>・生徒指導では「早期共有・複数対応」を合言葉に、チーム対応を行い解決が早くなった。今後は事案の対応に追われるのではなく、未然防止の観点での取り組みが必要である。生徒の心の醸成をさらに図ってきたい。</li> <li>・本校の課題である不登校については、登校支援及び特別支援委員会での見通しをもった手立てと、SC・SSW、通級教室や今年度より設置された校内ふれあい「かがやき教室」を活用した取り組みにより、進路決定や登校などにつながるという生徒に変容が見られた。このことで職員が手ごたえを感じていることは大きい。</li> <li>・生徒会を中心に「みんなで楽しむ・創る」を意識して取り組みを進めた結果、学校アンケート「体育祭・文化祭などの学校行事は自分たちが主体となって取り組み、充実した内容にすることができた。」で生徒の肯定的回答が96%となり、取り組みの成果が出ている。</li> <li>・今年度から給食が始まり、栄養教諭が定期的に巡回し食育指導が実施できるようになった。また、家庭科教員、栄養教諭、養護教諭と学校薬剤師が連携して健康集会が行われ、健康指導と食育指導が実施できたことは大きな成果であった。</li> </ul>	

重点目標 3	地域と協働連携した学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の困り感を学校運営協議会で共有し、委員がアイデアを出し地域の協力を得て、地域と連携した学校運営が可能となった。特に、防災学習について地域人材を活用した授業が実施できたことはよかった。</li> <li>・コロナによる活動制限がなくなり、今年度は、福祉をテーマに桜ボランティア協会の講演会が復活、スポーツ推進委員を指導員に招いて実施した新春生徒会企画「ポッチャ大会」、3年生有志による地域倉庫のペイント～つなぐプロジェクト～、女性防災士「桜ずきんちゃん」による防災学習の実施など、地域人材を活用し、生徒の「地域理解」と「地域貢献」が進んだことは大きい。</li> <li>・昨年度から進めている学校、地域ボランティア「やっこ屋」とPTAが連携した学校環境整備活動が軌道に乗ってきた。今年度は、PTA環境部員と「やっこ屋」が一緒に活動し、道具の使い方や花壇の整備のノウハウなどが伝授されたことで、PTAの自立した活動につながったことは成果である。</li> <li>・学びの一体化では、本校の人権学習を校区内に公開したことで来年度の北勢同研の方向性が明確になるとともに、15年間でどのような子どもたちを校区内で育成するかの手話し合いができたことはよかった。教員の学びの一体化への評価が少しずつ上昇し手ごたえを感じ始めている。</li> <li>・来年度から学校部活動の「自主的、自発的な参加」が始まることをよい機会ととらえ、教職員の働き方改革も踏まえ、長時間勤務の要因となっている部活動について活動時間や活動内容などの見直しを図りたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教育活動はキャリア教育につながるという考えの下、本校キャリア教育テーマ「未来くる学VIVA!」～自分の今と未来をつなげる学び～の定着と社会的・職業的自立に必要な4つの力を校訓と関連付け、行事等だけでなく教科学習の中でも意識して取り組む。</li> <li>・「早期共有・複数対応」を合言葉に、教頭を要としたチーム学校で引き続き生徒指導等対応にあたる。また、未然防止の観点から、教育相談の充実や普段の学校生活での見守りと声掛けなどで生徒理解に努めるとともに、道徳・人権教育等で生徒の心の醸成を図る。</li> <li>・特別支援教育を踏まえ授業のユニバーサルデザインの授業づくりの三つの柱「視覚化」「焦点化」「共有化」を図り、誰もがわかりやすい授業づくりの取り組みを継続する。</li> <li>・多様な子どもたちに対してICTを活用し、子どもたちが自己調整的に学ぶ、個別最適に学べるような授業の展開を図る。</li> <li>・特別な支援を要する生徒への配慮、不登校の予防及び学力保障は本校の取り組むべき大きな課題である。ICT機器の活用及び校内ふれあい「かがやき教室」での指導・支援等、これまで進めてきた学校としての体制を継承し、その充実を図ることで、その生徒に応じた合理的配慮を行い、学力・進路保障に努めたい。</li> <li>・学校運営協議会を中核として、生徒会や有志での地域行事の参加を継続させるとともに、地域人材の活用を一層進めることで生徒の地域理解と地域貢献を図り、地域社会への参画意識を高めたい。また、次年度も学校行事等におけるPTAの支援も受けながら、学校・家庭・地域が協働連携した学校づくりを進めたい。</li> <li>・中学生は災害発生時の対応として地域の核となることを踏まえ、現実味のある訓練や地域と連携した3年間を見通した防災学習計画を構築する。</li> <li>・職員の働き方改革では、来年度学校部活動の「自主的、自発的な参加」が始まることも踏まえ、職員の業務負担軽減や勤務時間の縮減の観点から4～7月の平日の活動時間の見直しを図る。また、ICT機器を日常に溶け込ませていかに業務で活用するかという視点で業務改善を進める。</li> </ul>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生徒が主体的に取り組む授業を目指した授業改善を進めます	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○言語活動を重視した対話的な授業の実践を進めます。</p> <p>①言語活動（読む・話す・伝える）の充実</p> <p>②タブレットやプロジェクタ等ICTを活用した授業の実施</p> <p>③問題解決能力・論理的思考力の育成</p> <p>④少人数授業の効果的な活用と授業に遅れがちな生徒の支援</p> <p>⑤全国学力学習状況調査やみえスタディの分析と活用</p> <p>⑥主体的な学習の時間「マイスタ」の設定</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が授業公開を行い、言語活動や対話が生まれる授業展開を研修しました。今後はより生徒の意見をつなぎ、より深い学びになる工夫をしていきます。</li> <li>・学力補充や生徒が自主的に学ぶ機会「マイスタ」を設定しました。今後はより生徒にとってよりよい自主学習のあり方を検討していきます。</li> </ul> <p>★学校自己評価において</p> <p>「学校は、分かりやすく、すすんで参加できる授業をしてくれている」</p> <p>→ 肯定的な回答 生徒93% 保護者89%</p> <p>※本年度は本項目において学校自己評価の項目の文言について新学習指導要領等との整合をとれるよう改定を行いました。</p> <p>〔R4年度まで〕「学校は授業をていねいに分かりやすく教えている」</p>	

重点目標2	ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団を目指します	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○共に生きる力を高める仲間づくりを推進します。</p> <p>①コアラタイムなどの教育相談、スクールカウンセラーによるカウンセリングの充実</p> <p>②Q-U調査を活用した学級づくり ・仲間づくり</p> <p>③不登校等個別の支援の継続（校内ふれあい教室の設置）</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイリーライフ（生活ノート）やコアラ週間（教育相談）などで一人ひとりの生徒の声をしっかりと受け止め、様々な場面で生徒同士や生徒と教師のよい関係づくりに取り組むことができました。</li> <li>・各生徒の状況に応じたきめ細やかな指導や支援に取り組んでいきます。</li> <li>・不登校については、校内ふれあい教室専任教員、SC・SSW、関係機関等と連携して、個別にきめ細かく支援することができました。今後も様々な学びの場を提供したり、諸機関と連携した支援していきます。</li> </ul> <p>★学校自己評価において</p> <p>「学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。」</p> <p>→ 肯定的な回答 生徒91% 保護者90%</p>	

重点目標 3	地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○学校からの情報を発信するとともに地域とともにある学校を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便りやHP及び「Home&amp;School」、動画配信による情報発信</li> <li>・生徒の地域行事への参加意欲の醸成と参加方法の工夫等</li> </ul> <p>○校区の学びの一体化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り入れ授業、人権フォーラム、三校二園合同研修会の実施等</li> </ul> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の学校の様子をHPや「Home&amp;School」により配信、また定期的な学校便りを発信し、本校の目指す教育について多くの方に理解していただきました。また、体育祭や文化祭は人数制限等設けることなく多くの保護者に参観いただきました。</li> <li>・「通学路の除草作業」や「内部川清掃」をPTAや地域の方々と取り組むことで地域の環境美化につなげることができました。</li> <li>・「あったか訪問」では、プレゼント製作を行い交流し、地域の福祉について考えました。</li> <li>・小学校への乗り入れ授業として、昨年度よりも多くの教科の教職員が授業を実施しました。</li> <li>・今年度は対面形式で人権フォーラムを行いました。</li> </ul> <p>★学校自己評価</p> <p>「学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。」</p> <p style="text-align: right;">→ 肯定的な回答 生徒94% 保護者95%</p>	



重点目標 4	キャリア教育を推進します	3
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の推進に努めます。</p> <p>①志講演による長期的な人生設計について考える機会の設定          ②職業観・勤労観を学ぶ「プロに聞く」の実施          ③高校生活について考える「高校生活入門講座」の実施          ④社会において確かに幸せに生きるために必要な学力、体力、能力を身に付けます。</p> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何のために学ぶのか」を考えられるようになり、近い将来（高校受験）だけでなく、その先を見据えた進路意識を持たせることができました。</li> <li>・進路の実現に向かって、今できることを意識し取り組んでいくために、学んだことと日常生活とのつながりが実感できる指導を今後も継続していきます。</li> </ul> <p>★学校自己評価において          「学校では、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや自らの生き方を学習している。」→ 肯定的な回答 生徒88% 保護者88%</p>	

## 2 改善方針

<p>1 主体的で対話的な深い学びを目指した授業改善を進めます。          「協働的な学び」と「個別最適化された学び」をつなげていきます。また引き続き各教科で育てたい資質に鑑みながら、「言語活動」を各教科で重視し、授業課題や発問、授業展開を日常的に改善、研修していきます。</p> <p>2 ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団を目指します。          「誰一人取り残さない学校教育」を目指し子どもの背景や家庭環境にもより目をむけていきます。また教育相談をより充実させたり、SC、SSW、養護教諭、関係機関と連携し、チームで子どもを育てていきます。</p> <p>3 地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます。          引く続きコミュニティスクールの活動として、授業参加をしていただいたり、ご意見を頂戴しながら教育活動の改善を行っていきます。生徒、保護者、地域が一体となった取組としては「通学路清掃」や「内部川清掃」を通じて学校と地域のつながりを深めていきます。</p> <p>4 キャリア教育を推進します。          本校は例年、キャリア教育に関する特色のある取組（志講演、高校生活入門講座等）を行っており、本校の行事の一つとして定着しています。今後も生徒たちのキャリアの発達を促す視点でカリキュラム・マネジメントを行い、生徒の発達段階に応じたキャリア教育をすすめ、社会において確かに幸せに生きるために必要な学力、体力、非認知能力を身に付けられる取組を行います。</p>
---

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 楠中 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<b>『あたたかさ』</b> 道徳・人権教育、教育相談、生徒会活動等の充実	4
主な方策  成果と課題	<p>                     ■昨年度と比較すると、減少傾向にあるが、それでもなお、不登校傾向のある生徒の割合が高い様子が見られた。これまでと同様に個々の生徒への細やかな対応をするため、スクールカウンセラーやSSWとの連携を密にとり、登校サポートセンター等、各関係諸機関も含め学校、保護者、地域で見守る体制の構築にあたった。また、今年度から設置された「くすのき教室」（登校サポートルーム）により、昨年まで不登校傾向の強かった生徒で定期的な登校が可能になったケースもあり、大きな成果があったと考えられる。くすのき教室で学ぶことにより、学校へ来るリズムを作ることができたり、卒業後を見据えて前向きに進路について考えたりする生徒が増えた。また、それ以外の課題を抱えている生徒に対しても、日々の連絡帳での担任との交流や、日常での言葉かけ等、日頃からの生徒との信頼関係づくりもおこなっている。今後もさらなる生徒理解に努め、子どもたちとともにより良い環境づくりを進めたい。                 </p> <p>                     ■昨年度まで力を注いできた人権学習について、今年度も時間をかけて丁寧に取り組めた。生徒からの学校アンケートの結果でも人権学習について、肯定的な数値が高い結果となった。これまでの実践を活かして人権学習の研修等年間計画に基づいた学習内容を実施し、それぞれの学年が工夫を重ねながら、子どもが主体的に学べる授業づくりをすることができた。また、道徳においても、学んだ内容について生徒がこれからの自分の人生の糧となるような授業実践ができたと考える。                 </p> <p>                     ■生徒会活動においては、コロナ以前の制約のない活動に戻りつつあり、生徒たちが主体的に活動できる場の設定ができた。校内放送や印刷物を利用した生徒会本部や委員会活動の報告、ICT機器を使った動画等の啓発活動、PTAの委員さんとも取り組むあいさつ運動など、今後も生徒たちが前向きに活動できるような場の設定をしていきたい。                 </p>	
重点目標 2	<b>『たくましさ』</b> 主体的な活動、健康教育、安全教育の充実	3
主な方策  成果と課題	<p>                     ■新型コロナウイルスの影響による学習活動の制限は昨年度に比べ少なくなりつつあり、コロナ以前の状況に戻りつつあるが、インフルエンザウイルスの感染拡大もあり、これまでと同様に、安心・安全な学習環境づくりのために手洗い・うがいの指導や教室の換気等について徹底した。また、保健委員会の活動の中で生徒による啓発動画の撮影や、校内放送での呼びかけなど感染症対策に関わる取り組みを保健集会という形で実施し、生徒の意識を高めることができた。                 </p> <p>                     ■今年度も昨年度に引き続き、学校保健委員会をオンラインではなく学校で開催することができた。PTAから保護者も参加していただき、口腔ケアについて保護者からの視点のご意見や質問、学校医からのアドバイスをいただくなど、活発な話し合いができた。また、養護教諭が保健だよりにより委員会の内容について掲載、配付し全校生徒向けの保健指導も実施した。加えて保健室前の掲示物を利用し、その時期にあった生徒たちの興味関心を喚起するテーマで、体や心の健康に関する学びの機会を設定した。これからもこのような場を設定することにより、個別の生活改善につなげていきたい。                 </p> <p>                     ■今年度も年度当初の地区別集会で確認した危険個所や、災害時にどう身を守るかについての話し合い結果と各地区の保護者から提供された情報により町内の危険場所のマップを昇降口付近に掲示している。また、今年度は通常の火災と水害を想定したグラウンド及び屋上への避難訓練に加え、小学校とこども園と同日同時に避難訓練を実施し、地域の防災担当の方に見てもらおうという、三校園での共同訓練を企画した。今後も地区の地理的状況について生徒の理解を深め、防災意識・危機管理能力を高めていきたい。                 </p>	

重点目標 3	『たしかさ』 学力の向上、キャリア教育、特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■昨年度に引き続き、「授業の四か条」「基礎学習の流れ」「家庭学習の手引き」の内容検討、確認を行い取り組みを進め、日々の授業実践や補充学習・家庭学習等の生徒の主体的な取組につなげた。また、ICT機器の効果的な活用について教職員研修を進め、生徒の学力向上につながる情報の共有、授業改善に努めた。また、研究協議会での授業実践の交流や教育委員会主催の研修への積極的な参加など、他校での実践も参考にしながら指導力向上に努めた。</p> <p>■今年度も2年生が職場体験学習を予定通り3日間実施することができた。それぞれの実習先において、勤労の意義や喜びについて学ぶ機会を与えていただき、生徒にとって、将来の進路について考える貴重な学びの場になったと考える。また、2年生と3年生がそれぞれ外部講師を招いての「マナー講座」を実施し、社会に出た時に身に着けるべき所作や姿勢、意識について考えることができた。</p> <p>■特別支援委員会や生徒指導委員会、運営委員会などで生徒一人一人の課題について現状と今後の指導方針について話し合い、すべての生徒の課題を共有し、その生徒や保護者のニーズにあった教育支援や合理的配慮について組織的に行なっている。また、SCやSSW、教育支援課をはじめ、関係諸機関との連携を深め、生徒本人や保護者、家庭の困り感に寄り添い、卒業後の進路保障も含めて学校全体で組織的に支援にあたりたい。</p>	

重点目標 4	『地域とともに作る学校』 地域人材の活用促進、地域での学習活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■コミュニテースクール運営協議会の会議自体は年5回であるが、委員の皆様とは運営協議会以外の場でもお世話になる機会が多く、学校の教育活動や運営方針の状況について様々な助言をいただくことができた。また、楠地区まちづくり協議会主催の行事への中学生ボランティアの参加や、毎月の吉崎海岸清掃への自主的な参加など、地域とのつながりが子どもたちの中に根付いている様子が見られる。また、地区の人権標語作品募集に学年単位で参加しており、生徒の入選作品が印刷された幟が毎年学校に送られ、生徒昇降口に掲示して、生徒の人権意識を高める啓発活動の一環としている。今後も地域との深いつながりを学校の強みとして、更に開かれた学校づくりを目指したい。</p> <p>■地域の総合型スポーツクラブである、楠スポーツクラブからは部活動指導員が派遣されており、いくつかの部活動では毎日放課後にお世話になっている。また、設置外の活動でも子どもたちが指導を受けており、中学校に設置されていない、自分の興味のあるスポーツに意欲的に取り組むことができる体制が整っている。今後も楠中学校と楠スポーツクラブの連携を深め、子どもたちが主体的に取り組むことのできる活動の場を広げていきたいと考える。</p>	

## 2 改善方針

<p>■本校教職員の強みとして、普段の授業中の発言や休み時間の何気ない会話、やり取り帳の記述内容等から、きめ細やかな生徒観察をして、学習指導や支援に活かしていることがあげられる。また、生徒に関する些細な情報も大切に、学年、学校全体で共有して生徒への理解を深め、一人一人を大切にする教育を目指している。今後も、学年間の連携や困り感の共有をより充実させていくことによって、学校組織としての支援・指導を行えるようにしたい。また、コロナ禍以前の状況に戻りつつある学習環境において、子どもたちが主体的に学び、成長につながるような教育活動、場の設定をしていきたい。</p> <p>■主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「人権学習（総合的な学習の時間）」において、「学び合い」や「考え合う」授業づくりに工夫を重ねてきた。また、それ以外の教科においても、授業の中の様々な場面において、生徒が意欲的に学習に取り組むことができるような場の設定をしている。全体研修会において今年度の振り返りを行い、情報共有しながら学びの質を上げていくことが大切であると考えている。来年度以降につながるような振り返りを実施し、今後につなげていきたい。</p> <p>■すべての学校教育活動が、コロナ禍以前に戻りつつある状況において、学習内容や行事の精選、効果的な取り組みなどについてさらに考えていく必要がある。      今後は働き方改革も意識しながらの教育活動に努め、生徒も教職員も心身ともに健康に過ごせるような学校づくりをしていかなければならないと考える。</p>
--